

現代の 国語

1



目次

1 豊かに想像する

詩	朝のりレー	谷川 俊太郎	16
物語	竜	今江 祥智	20
話す・聞く	グルーペデイスカッション	話題や展開にそって話し合いをつなげる	30
	言葉発見① 音声のしくみとはたらき		34
	漢字を身につけよう①		38

2 わかりやすく伝える

説明	ペンギンの防寒着	上田 一生	40
	クジラの飲み水	大隅 清治	44
書く	レポート	調べたことを整理してわかりやすくまとめる	54
	言葉発見② 話し言葉と書き言葉		60
	漢字を身につけよう②		62

3 ものの見方・感性を養う

物語	空中ブランコ乗りのキキ	別役 実	64
	読み方を学ぼう② 人物相関図		76
随筆	字のない葉書	文法の窓① 言葉の単位・文節の関係	77
	読み方を学ぼう③ 行動描写	新教材	84
	向田 邦子		78



4 論理的に考える

書く	随筆	私の読書体験 本を読むことのおもしろさ	又吉 直樹	92
		漢字を身につけよう⑤		94
説明	玄関扉	漢字のしくみ② 部首と成り立ち		85
		読み方を学ぼう④ 三角ロジック		104
		言葉発見③ 接続する語句・指示する語句		106
話す・聞く	スピーチ	構成を工夫して魅力を伝える		108
		漢字を身につけよう④		112

5 古典に学ぶ

解説	月を思つ心		114
古文	竹取物語	古文の読み方 古典の仮名遣い	116
		表現プラザ 変わり身の上話	129
漢文	故事成語	矛盾	130
		漢文の読み方 訓読の仕方	132
		漢字のしくみ③ 漢字の音と訓	136
		漢字を身につけよう⑥	140

領域別教材一覧
 確かな言葉の力をつけるために——この教科書の使い方

※ダイジェストでは、囲みの教材を紹介しています。

6 情報を関係づける

- 情報 複数の情報を関連つけて考えをまとめる **新教材** 142
- 図表 防災に関するデータ **新教材** 144
- 記録 「みんなんでいるから大丈夫」の怖さ **新教材** 146
- 書く 行事案内リーフレット 必要な情報をわかりやすく伝える 150
- 漢字の窓2 単語の類別・品詞 155
- 漢字を身につけよう⑥ 156
- 山村 武彦 146

7 読みを深め合う

- 詩 それだけでいい **新教材** 158
- 読み方を学ぼう⑤ 詩の表現技法 **新教材** 161
- 言葉発見④ 比喩・倒置・反復・対句・体言止め 162
- 書く 詩 思いや発見をリズムに乗せる **新教材** 164
- 小説 トロツコ 168
- 読み方を学ぼう⑥ 情景描写 180
- 読書活動④ ブッククラブ **新教材** 181
- 漢字を身につけよう⑦ 182
- 芥川 龍之介 168

8 視野を広げる

- 説明 意味と意図——コミュニケーションを考える **新教材** 184
- 読み方を学ぼう⑦ 要約 **新教材** 192
- 言葉発見⑥ 方言と共通語 193
- 書く 意見文 根拠を明確にして考えを述べる 196
- 漢字を身につけよう⑧ 200
- 川添 愛 184

9 振り返って見つめる

- 小説 少年の日の思い出 202
- 読み方を学ぼう⑧ 語り手・視点 216
- 漢字を身につけよう⑨ 217
- グループ新聞 一年間の自分とクラスを振り返って 218
- 歌の言葉 栄光の架橋 **新教材** 224
- 「歌」ゆず 224
- 文法のとめ 226
- ヘルマン・ヘッセ「訳」高橋 健二 202

読書の広場

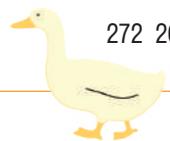
- 小さな図書館 238
- 小説 電車は走る **新教材** 244
- 重松 清 244
- 小説 紅鯉 **新教材** 250
- 丘修三 250

情報を活用する

- 情報探しの方法 276
- 引用と著作権 282
- 古典芸能に親しむ 284
- 落語の世界 286
- 落語 桃太郎 284
- もとしたいつみ 286
- 社会生活に生かす 290
- メモを活用する 292
- 話し合いの形式を選ぶ 294
- 辞典を活用する 296
- 手紙・はがき・メールの書き方 298
- 原稿用紙の使い方・推敲の仕方 299

資料編

- 参考資料
- 日本文学名作集 300
- 学習用語辞典 304
- 語彙の広がり **新教材** 310
- 「思考の方法」一覧 **新教材** 314
- 一年生で学ぶ漢字字典 318
- 一年生で学ぶ音訓 336
- 小学校六年生で学習した漢字 337
- 常用漢字表音訓一覧 338
- 常用漢字表付表 351
- 「読み方を学ぼう」一覧 折り込み



書く

◀領域

話し言葉と書き言葉						
漢字	語彙	文や文章	言葉遣い	表現の技法		
伝統的な言語文化		言葉の由来や変化			読書	
	○					原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。
		○	○		○	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、使う。
					○	引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使う。
		●		●	●	目的や場面に応じて、日常生活の中から題材を決める。
			●		●	集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にする。
	●				●	中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考える。
●	●					根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。
●		●	●			読み手の立場に立って文章を整える。 [表記・語句の用法・叙述の仕方]
	●			●	●	根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などをふまえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。

編集	記録	意見	創作	案内	報告	創作	随筆	引用	説明	言語活動				
グループ新聞	一年間の自分とクラスを振り返って	根拠を明確にして考えを述べる	意見文	思いや発見のリズムに乗せる	詩	必要な情報をわかりやすく伝える	行案内リーフレット	表現プラザ	変わり身の上話	随筆	体験に向き合い意味づける	調べたことを整理してわかりやすくまとめる	レポート	教材名
218	196	164	150	130	88	54								

話す・聞く

◀領域

話し言葉と書き言葉						
漢字	語彙	文や文章	言葉遣い	表現の技法		
伝統的な言語文化		言葉の由来や変化			読書	
		○	○			原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。
○		○			○	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、使う。
	○	○				引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使う。
				●		目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決める。
●						集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する。
				●		中心的な部分と付加的な部分、事実と意見の関係に注意して話の構成を考える。
				●		相手の反応をふまえながら、表現を工夫する。
	●				●	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などをふまえて、自分の考えをまとめること。
●		●			●	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめる。

編集	記録	紹介	話し合い	紹介	意見	質問	言語活動			
グループ新聞	一年間の自分とクラスを振り返って	ブッククラブ	読書活動	情報	複数の情報を関連づけて考えをまとめる	スピーチ	構成を工夫して魅力を伝える	グループディスカッション	話題や展開にそって話し合いをつなげる	教材名
218	181	142	108	30						

各学年の冒頭に「領域別教材一覧」を設け、各教材でつきたい力を明示し、1年間の見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

領域別教材一覧 ● つきたい力を確かめよう

言葉の特徴
文化
知識・技能
情報の扱い方
つきたい力
思考力・判断力・表現力

読む（文学）

◀領域

読む（説明）

◀領域

読む（文学）							読む（説明）							言葉の特徴 や使い方	文化 言語	知識・技能	情報の扱い方	つきたい力	思考力・判断力・表現力	
話し言葉と書き言葉	漢字	語彙	文や文章	言葉遣い	表現の技法	話し言葉と書き言葉	漢字	語彙	文や文章	言葉遣い	表現の技法									
伝統的な言語文化							伝統的な言語文化													
言葉の由来や変化							言葉の由来や変化													
読書							読書													
○				○				○	○	○					原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。					
	○	○	○	○	○		○		○	○	○			比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、使う。						
								○	○					引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使う。						
										●	●	●		中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握する。						
●	●		●	●	●									場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉える。						
								●	●	●				必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する。						
	●	●	●											場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈する。						
●	●	●		●	●				●		●	●		文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える。						
●				●	●			●			●			文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。						
小説／ 考えを 伝え合う	小説／ 考えを 記録する	詩／ 考えを 伝え合う	随筆／ 考えを 記録する	物語／ 考えを 伝え合う	物語／ 考えを 伝え合う	詩／ 考えを 伝え合う		説明／ 考えを まとめる	説明・ 記録／ 考えを まとめる	図表／ 考えを 報告する	説明／ 考えを まとめる	説明／ 考えを 報告する	文種／ 言語活動							
少年の日の思い出	トロッコ	それだけでいい	字のない葉書	空中ブランコ乗りのキキ	竜	朝のリレー		意味と意図	情報 「みんなているから大丈夫」の怖さ	情報 防災に関するデータ	玄関扉	ペンギンの防寒着 クジラの飲み水	教材名							
202	168	158	78	64	20	16		184	146	144	96	40								

各学年の冒頭に「領域別教材一覧」を設け、各教材でつきたい力を明示し、1年間の見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

確かな言葉の力をつけるために

教科書全体・各教材の構成を示し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのステップを、生徒自身が自覚しながら学習に取り組めるようにしました。

この教科書の全体構成

この教科書は本編と資料編の二部構成になっています。資料編には、実践的な方法や社会生活で役立つ知識がまとめられています。関連する本編の学習中や学習の前後に、他教科の学習や家庭学習などの際に、何度もページを開いて活用しましょう。

各教材での学習

読むこと

物語「空中ブランコ乗りのキキ」

空中ブランコ乗りのキキ

学びの道しるべ

思考の仕方

学びの道しるべ

読み方を学ぼう

読み方を学ぼう 2

人物相関図

鳥の目線で語る人物の関係

人物相関図とは、小説、漫画、ドラマなどの登場人物たちの関係性を、表の図にしたものです。人物相関図を作ることで、物全体を高いところから眺めるように理解することができます。この図が描きやすいです。

人物相関図を作る時、物語の全体像や登場人物のしみがよくわかる。

「空中ブランコ乗りのキキ」における人物相関図

キキ

おばあさん

町の人

町の人

パイバル

ピピ

ピピロのロロ

キキ

1 主人公を中央に大きく書く。

2 登場人物を書き出し、いく。

3 主人公との関係を矢印や線で表し、その大小、形、色などを工夫する。

4 「関係」「パイバル」など、主人公との関係を言葉で表す。

「読み方を学ぼう」一覧

巻末の折り込みに、「読み方を学ぼう」の一覧をまとめています。繰り返し確認しながら、活用しましょう。

学びの道しるべ

主体的・対話的で深い学び

ステップ 1 目標の確認

目標を確かめて、学習の見通しをもちます。

ステップ 2 内容を整理する

情報を整理・確認して、文章の内容や構成をつかみます。自学自習にも対応した課題を設定しています。

ステップ 3 読みを深める

文章を詳しく読み、対話をおして内容や構成・表現の仕方についての理解を深めます。

ステップ 4 自分の考えを深める

文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深めたり、広げたりします。

ステップ 5 学びを振り返る

自分の学習を振り返って評価し、これからの学習へ生かします。

思考の方法

情報と情報との関係を捉えたり、考えを整理したり深めたりする方法を各教材の学習活動と関連づけながら取り上げていきます。

語彙を豊かに

理解できる語句と使える語句の量を増やし、語感を磨くために、さまざまなテーマで教材に関連した語彙を取り上げていきます。

+α 学びを広げる

ステップ1～5までの学習を活用して取り組み、学びをさらに広げたり、深めたりします。

「読み方を学ぼう」には、思考力・判断力・表現力を伸ばすための方法が示されています。また、「読書の広場」にも、学んだ「読み方」を活用できる教材を配列しています。

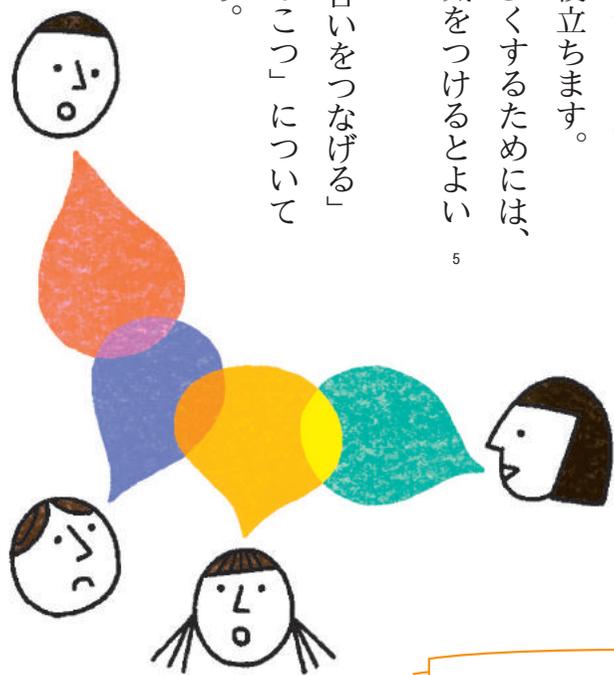
グループディスカッション

話題や展開にそって話し合いをつなげる

各学年の第1単元に「グループディスカッション」を設けました。話し合いの方法を学年のはじめに学習することで、さまざまな場面で活用できます。

少人数で話し合う「グループディスカッション」は、考えを広げたり深めたりするのに役立ちます。話し合いをよりよくするためには、どのようなことに気をつけるとよいでしょうか。

ここでは、「話し合いをつなげる」ための「話し合いのこつ」について学んでいきましょう。



グループディスカッション

あるテーマについて、異なる立場や考えの人たちが少人数で意見を交換すること。

目標

- 話題や展開にそって話し合いをつなげるための方法を理解し、活用する。
- 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、自分の考えをまとめる。

各教材の冒頭に目標を明示し、見直しをもって主体的に学習できるようにしました。

学習の流れ

- 1 「話し合いのこつ」を見つける
 - 2 グループで話し合いをする
 - 3 話し合いでの発言を振り返る
- 学びを振り返る

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、冒頭に「学習の流れ」を示し、各教材の学習活動の流れがひとめでわかるようにしました。

1 「話し合いのこつ」を見つける

次の話し合い記録から、「話し合いをつなげる」ための「話し合いのこつ」を見つけましょう。特に、太字の発言のはたらきや効果を考えましょう。

テーマ 「竜」のサブタイトルを考えよう

石原 「竜」のサブタイトル、何がいいかな？
 野村 サブタイトルだから、物語の内容がぎゅっってまってるようなのがいいね。
 松山 そうだね！
 田中 **じゃあ、「竜の子三太郎」なんてどうかな。**
 野村 シンプルでいいね！ そんな感じでどんどんアイデアを出していこう。
 松山 **野村さんが考えるサブタイトルは？**
 野村 「気弱な神様の話」とかはどうかかな。
 石原 **どうして？**
 野村 だって、主人公の性格がわかるし、なにより読んでみたくなるかなと思ったから。
 松山 ああ、いいサブタイトルだね。

田中 なるほどね。でも、他にはないかなあ。まだ意見

石原 何か謎めいていない**石原さんの案は？**

野村 **それって、どういう意味？**

石原 野村さんが言っていたような、読んでみたくなる工夫をもっとしたいなと思ったの。物語の終わり方も不思議な感じだしね。

松山 ああ、最後の場面が使えるそうだね。

野村 確かにそうだね。

田中 **そしたら、「神様も悪くない」にしようよ。**

石原 あ！ それすごくいいね。

松山 うんうん、物語の内容がつまっているし、読んでみたくなるね。

野村 いいと思う！

...



2 グループで話し合いをする

話し合いの質を高めるための「話し合いのこつ」を、3年間の系統性を意識して配列しました。

次の「話し合いのこつ」を意識して、グループで話し合いましょう。

提案

◇ アイデアを出す

例「だったら、……はどうかかな」

確認

★ 発言内容を確認する

例「……ってどういふこと？」

質問

☆ 理由を問いかける

例「どうして？」

促し

◇ 相手の発言を促す

例「○○さんはどう？」

この教科書に出てくる「話し合いのこつ」と発言例

話し合いを「つなげる」(二年)

提案 「だったら、……はどうかかな」

確認 「……ってどういふこと？」

質問 「どうして？」

促し 「○○さんはどう？」

話し合いを「深める」(二年)

反論 「でも、……」

理由づけ 「……だから」

受容 「……はわかるよ」

言い換え 「それって、……だよね」

話し合いを「計画的に進める」(三年)

計画 「話し合う順番は……」

展開 「次は、……について話そう」

軌道修正 「話を元に戻そうよ」

整理 「意見をまとめると……」

*うなずく、相づちをうつ、顔を向けるなど、相手が話しやすい聞き方を心がけましょう。

テーマ例

◎「竜」のサブタイトルを考えよう。

◎教科書の表紙の絵のタイトルを考えよう。

◎文化祭の出し物は何がよいか。

◎もしも有名人の特別授業が一時間だけ受けられるとしたら、誰を招きたいか。



八人一組になり、四人が話し合っている間、残りの四人は話し合いを観察します。話し合いの中で効果的だった発言と発言者をメモしましょう。

発言メモの例

発言	発言者	こつ	効果
じゃあ、「竜の子三太郎」なんてどうかかな。	田中	提案	ここからアイデアが出始めた。
どうして？	石原	質問	考えの理由がはっきりした。
ああ、最後の場面が使えるよだね。	松山		アイデアを出すきっかけになった。

3 話し合いでの発言を振り返る

発言メモを参考にして、具体的な発言に着目した振り返りをしましょう。

●どのような「話し合いのこつ」が出てきたか。

●話し合いをつなげるための「話し合いのこつ」のうち、特に効果的だったのはどれか。

学びを振り返る

目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめましょう。

教材の最後には学習を振り返る機会を設け、身についた力を自分で診断・評価し、次に生かすことができます。

「話し合いのこつ」とその効果は、話し合い後に記入しましょう。全ての発言について記入する必要はありません。また、自分で見つけたこつも書いてみましょう。

「話し合いのこつ」は、それぞれに効果的なタイミングがあります。どのようなときに、なんのために使うのかを意識しながら、一年間を通して話し合いに生かしましょう。

又吉 直樹

本を読むことの楽しみ

読書に夢中になったのは中学生のときでした。芥川龍之介の「トロッコ」がきっかけで、最初は難しいと思っていたのですが、読み進めるうちに、「あれ？自分が知ってる感覚だ」と驚いたのです。

それまで小説は、「人間とはこうあるべき」と真面目で正しいことだけが書かれていると誤解していたのですが、「トロッコ」からは、大人と肩を並べようとして失敗する少年の不安を読み取ることができました。誰にも言えない自分の弱さやだめな部分を代弁してもらえたような心強さを感じました。

それから、芥川の作品を続けて読んでいきました。「羅生門」で描かれていたのは、やっぱり不完全な人間でした。ふだん、自分がなんとなく感じているけれど言葉にできなかった複雑な感覚がみごとに言葉になっていることがおもしろ

かったです。「蜜柑」では、人の優しさが美しく描かれました。物語の中の蜜柑の色が鮮やかなのも印象的でした。その頃、太宰治の『人間失格』とも出会いました。周囲の人々との関わりの中で生じる微妙な心理状態は、当時の僕自身を見るようでした。

芥川や太宰の作品を読んだことで、自分と同じ悩みをもつ人間がいることを知り、とても救われた気持ちでした。

読書は自分の感覚を確認できたり、発見できたりするおもしろさがあります。世界にはおもしろい小説がたくさんありますから、永遠に読み終わらないというのも読書の魅力かもしれません。

〈この教科書のための書きおろし〉

作家の方に自身の読書体験を語っていただきました。読書への興味を喚起し、読書の意義や効用についての理解を深めます。

▶ 著者からのメッセージ動画をご覧ください。

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/03gkpr/contentintro/#04>



又吉 直樹 (またよし なおき)
1980 (昭和55) 年—
お笑い芸人。作家。
大阪府の生まれ。

10

5

10

5



東京百景



劇場



火花

又吉直樹さんの本



人間失格
太宰治



羅生門・蜜柑ほか
芥川龍之介

意味と意図

——コミュニケーションを考える

川添 愛



目標

- 必要な情報に着目して文章を要約し、内容を捉える。
- 文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深める。

各教材の冒頭に目標を明示し、見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

以前、私が機械に人間の言葉を理解させる研究に関わっていたとき、よく専門外の人から「人間並みに言葉がわかる機械なんて、辞書を機械に覚えさせればすぐに作れるでしょう。」と言われることがありました。このように言う人は、「辞書に書いてあるような言葉の意味さえ知っていれば、コミュニケーションは難なく成立する」と思っているようですが、これはよくある間違いです。言葉の辞書的な意味を知っているというのは、言葉によるコミュニケーションを成立させるために必要なことですが、それだけでは十分ではありません。その大きな理由の一つに、言葉の「意味」と「意図」との違いがあります。

5

「意味」と「意図」をどう厳密に区別すべきかについては諸説ありますが、ここではおまかに「意味」を「単語や文そのものが表す内容」とし、「意図」を「言葉を発する人が、その言葉によって表している（あるいは、表したいと考えている）内容」とします。つまり「意味」は「言葉の辞書的な内容」を指し、「意図」は「話す人がこういうつもり

10

で言った内容」と言うことができます。言葉によるコミュニケーションにおいて重要なのは、実は「意味の理解」ではなく、「意図の理解」のほうです。私たちは言葉を発するのとて、「言いたいこと」、つまり「意図」を相手に伝えたつもりになります。しかし、私たちの意図が全て、言葉の意味によって運ばれているわけではありません。むしろ、「意味」によって担われるのは私たちの「意図」のほんの一部でしかなく、残りの部分は言葉の意味以外のさまざまな要素によって担われています。

5

8 漢 離れる

具体例を見てみましょう。ジャガイモが

数十個入った段ボールが少し離れたところにある状況で、あなたが人に「ジャガイモを持ってきて。」と言う場面を考えてみま

10

す。もしその場所が「野菜の出荷場」であり、あなたが「野菜を出荷しようとしている人」であれば、おそらく「ジャガイモを段ボールごと持ってきてほしい」という

「意図」でそのように言っているでしょう。

15

他方、その場所が「家の台所」であり、あなたが「料理をしようとしている人」であれば、ジャガイモを段ボールごとではなく、



料理に必要な分だけ持ってきてほしいということを意図しているかもしれませんが。その場合は更に、どんな料理をどれほどの量作ろうとしているかによって、持ってきてほしい量が変わるでしょう。

このように、「ジャガイモを持ってきて。」という単純な文にもさまざまな意図をこめることができます。そして、これらのうちのどれが話し手の意図なのかということは、「ジャガイモ」と「持ってくる」という言葉の辞書的な意味だけではわかりません。聞き手が話し手の意図を理解するには、言葉の辞書的な意味に加え、そのときの状況^{じょうきょう}、文脈、相手と自分との関係、その他の一般常識などを手がかりに、複数の可能性の中から「話し手の意図として適切な解釈」をしぼり込む必要があります。私たち人間は多くの場合、それを無意識に行っています。

発せられた言葉の「字面どおりの意味」と、その言葉にこめられた「意図」が一致しない例も、日常生活には頻繁にみられます。しかし多くの場合、私たちはその「不一致」を問題にすることなく、相手の意図を正しく理解しています。例えば、あなたが窓に手の届く場所に立っているときに、誰かから「すみません、その窓、開けられますか?」と言われたとします。それを字面どおりに解釈すれば、「相手は、私が窓を開けることができるかどうかを尋ねている」ということになります。しかし、だからといって、ただ「はい。私は窓を開けられますよ。見ればわかるでしょう。」と答えるだけですませる人はほとんどいないと思います。親切な人ならば、すぐに手を伸ばして窓を開けてあげてください。

それは、「その窓、開けられますか?」という文を、字面どおりの「質問」ではなく、「窓を開けてください。」という「依頼」であると解釈するからです。なぜそのような解釈ができるかというと、私たちが「今、私の手が窓に届くことが明らかで、相手がなぜ『あえて』そういうことを尋ねたのか」を考え、「それは私に窓を開けてほしいからだ」と察することができるからです。つまり、私たちの持つ「他人の知識や思考、感情を推測する能力」が、相手の発言の「言外の意図」に気づかせてくれるのです。

しかし、「意図の推測」がいつもうまくいくとは限りません。むしろ、私たちはしょっちゅう、意図の理解や伝達に失敗します。特に、SNSやメールなどのように文字のみによるコミュニケーションがあたりまえになった現在、意図がうまく伝わらないことによるトラブルが目につくようになりました。

例えば、あなたが自分で撮った写真をSNSにアップしたとします。そのとき、もし人から次のように言われたらどのように感じるでしょうか。



「読むこと」教材の脚注欄には、辞書などを活用して意味を調べる語句を提示するとともに、類義語や対義語を示し、言葉の関係性を捉えながら語彙力を高められるようにしました。

12 漢 頻繁

11【SNS】ソーシャルネットワークキングサービス略。パソコンや携帯電話、スマートフォンなどを通して、インターネット上で利用者がどうしが交流できるサービス。

2 漢 依頼

右7 意 文脈
右10 意 無意識

左4 意 あえて↓ 類 しいて
左6 意 推測する↓ 類 推察する
左6 意 言外
左14 意 トラブル
↓ 類 もめごと

「あなたのように写真が上手じゃない人は、どうすればいい写真が撮れるようになるんでしょうね。」

こういうことを言われたら、あなたはこの人から「写真が上手だ」と言われていると思うでしょうか。それとも、「写真が下手だ」と言われていると思うでしょうか。それは、「あなたのように写真が上手じゃない人」という部分を、「あなたと違って写真が上手ではない人」と取るか、「あなたと同様に写真が苦手な人」と取るかによって変わります。

もしあなたがこの発言者のことをよく知っており、なおかつ会話の流れが明らか場合は、どちらに解釈すべきかをあまり迷うことはないでしょう。しかし、もしこれが個人的に知らない相手の、文脈のよくわからない発言だったら、ただとまどうしかないかもしれません。このような例では最悪の場合、「発言者はあなたを褒めているつもりだったのに、あなたはけなされていると思った」というひどい誤解が生じる危険性もあります。

文字によるコミュニケーションでは、イントネーションなどの音声的な情報がなく、また発言者の表情や状況が見えない分、相手がどういう意図で発言したかを推測するのが難しくなります。そのうえ、個人的に知らない相手や、それまで会話に参加していなかった相手とは、その発言に至るまでの経緯が十分に共有できないこともあり、意図が間違っ

て伝わる危険性が高くなってしまふのです。このように、言葉によるコミュニケーションは、自分と相手が「言葉の辞書的な意味」のみならず、その他の多くの知識を共有していることを土台にして成立するものです。そ

して、そういった土台が不足したり崩れたりすると成立しなくなってしまふ、実に危ういものでもあるのです。

〈この教科書のための書きおろし／絵・後藤 範行〉



【著者】川添 愛（かわぞえ あい）
一九七三（昭和四八）年—
言語学者。作家。長崎県の生まれ。
【著書】『自動人形の城』『白と黒のとびら』『精霊の箱』など

新出漢字

- 185 離 ▶ はな 離れる 分離
- 186 頻 ▶ ヒン 頻度
- 187 依 ▶ イ 依願
- 186 繁 ▶ ハン 繁栄

「読むこと」教材の末尾には「私の本棚」を設け、教材との関連を明示し、多様な観点から本を紹介しました。

私の本棚

コミュニケーションを通して考える人と言葉
働きたくないイタチと
言葉がわかるロボット
川添 愛

言葉はなぜ生まれたのか
【著】岡ノ谷 一夫
【絵】石森 愛彦

わかりあえないことから
平田 オリザ



学びの道しるべ



「読むこと」教材の「学びの道しるべ」は、見開き2ページで丁寧に学習過程を示しました。学びのステップを明確にすることで、主体的・対話的で深い学びを実現します。

目標

- 必要な情報に着目して文章を要約し、内容を捉える。 目標を確かめて、
- 文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深める。 学習の見通しをもちます。

内容を整理する

情報を整理・確認して、文章の内容や構成をつかみます。自学自習にも対応した課題を設定しています。

- 1 「意味」と「意図」は、それぞれのようなものだと説明されているか、抜き出して整理しよう。

- 2 「ジャガイモ」と「窓」の例に共通していることは何か、比べて見つけよう。

読みを深める

文章を詳しく読み、対話をとおして内容や構成・表現の仕方についての理解を深めます。

- 3 「言葉によるコミュニケーションにおいて重要なのは、実は『意味の理解』ではなく、『意図の理解』のほう」(185ページ・1行め)とあるが、それはなぜか。187ページ・7行めまでの内容に即して説明しよう。 読み方を学ぼう **要約**

- 4 SNSの例をあげていることにはどのような効果があるか、考えよう。

「学びの道しるべ」の課題に関連して学習できる、さまざまな読みの方略を取り上げました。▶ 192ページ

主体的・対話的で深い学び

ステップ 4

自分の考えを深める

文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深めたり、広げたりします。

- 5 筆者は、言葉によるコミュニケーションについて、「実に危ういものでもあるのです。」(189ページ・1行め)と述べている。このことについて、自分の考えを文章にまとめよう。 思考 関連づける

学びを振り返る

自分の学習を振り返って評価し、これからの学習へ生かします。



目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめよう。

振り返りのキーワード 要約・文章の構成・意味と意図

+α

学びを広げる

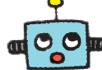
「ジャガイモ」と「窓」の例と同じように、いくつかの解釈の可能性がある例を考えて、紹介し合おう。

ステップ1～5までの学習を活用して取り組み、学びを更に広げたり、深めたりします。

この教材での学びをこれからの学習や読書へつなげよう。

思考の方法 関連づける

経験と関連づけて考えると……



「言葉によるコミュニケーションは、……
実に危ういものでもあるのです。」

関連づける

- 相手の意図を誤解したことが原因で気まずくなった。 経験の例
- どちらの意味かがわからず、メールの返事に困った。 経験の例
- はじめは誤解していたが、相手の意図を確かめて誤解が解消した。 経験の例



自分の意見をより具体的なものにするために、経験と結びつけて考える。

「学びの道しるべ」の課題と関連づけて、考えを整理したり深めたりする方法を「思考の方法」として示しました。

語彙を豊かに

「推」を使った言葉

この文章には、「推測する」という言葉が何度か使われています。

「推」を使った言葉は、他にもたくさんあります。それぞれどのような場面で、どのように使われるでしょうか。

- 推理
- 推量
- 推定
- 推察
- 邪推
- 推進
- 推薦
- 推移

「推敲」も「推」を使った言葉だね。



「語彙を豊かに」では、語感を磨き語彙を豊かにするために、さまざまなテーマで教材に関連した語彙を取り上げました。

- 語り手・視点
- 要約
- 情景描写
- 詩の表現技法
- 三角ロジック
- 行動描写
- 人物相関図
- 説明文の基本構造

要約

目的に応じた情報の整理

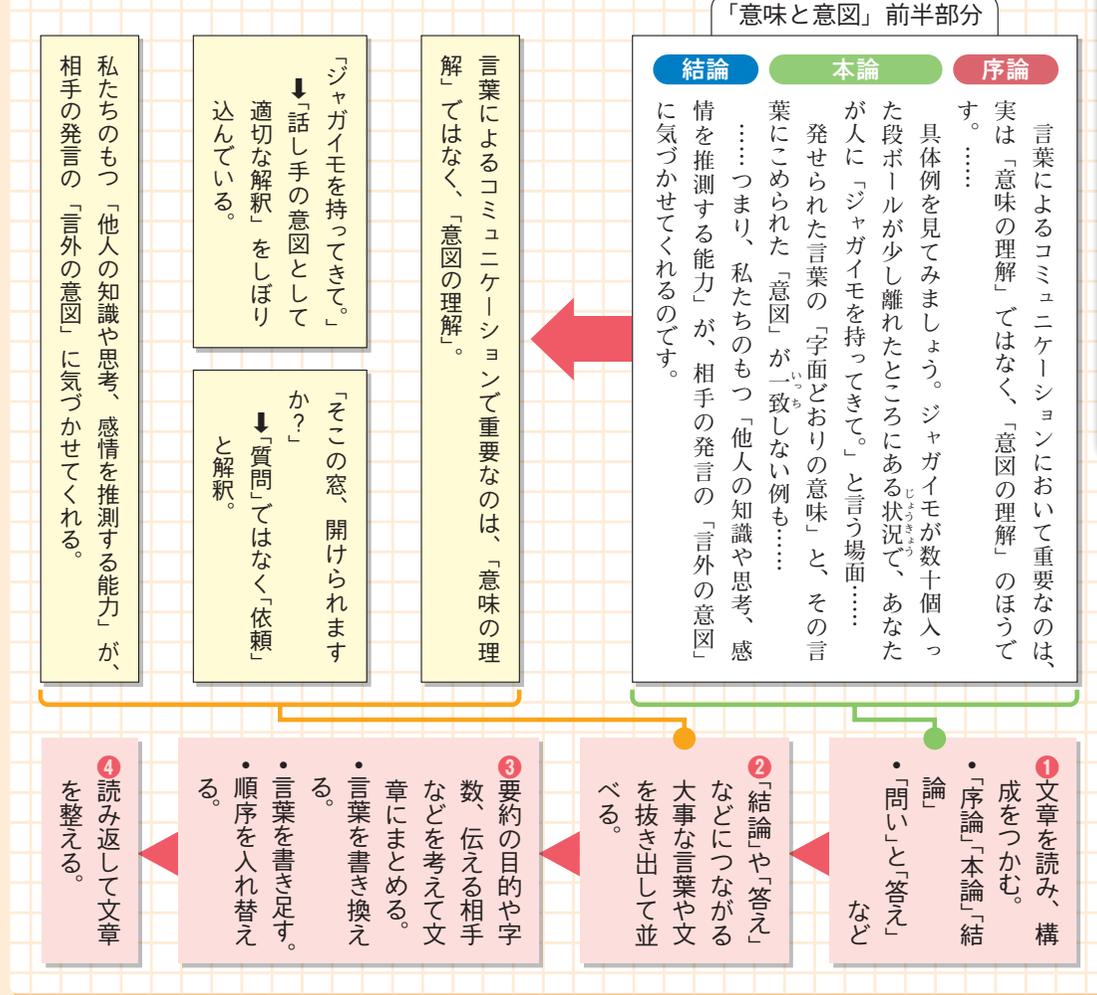
要約とは、文章や話の要点を短くまとめることです。要約をするには、まず、文章や話の構成をつかむことが重要です。そして、まとまりごとの要点を見つけます。次に、要点を整理しているかを考えながらつなぎ合わせます。

要点をつなぎ合わせる際には、必要に応じて、もとの文章や話にはない言葉を補ったり、別の言葉で言い換えたりします。

▼要約する力をつけると、文章や話の中心の内容がつかめる。

「読むこと」教材の学習過程に即して、「読み方を学ぼう」を設け、文章を正確に読み解き、深く読み味わうための読みの方略を、図解でわかりやすく示しました。

「意味と意図」における要約



3年	2年	1年
6 反復	8 心内語	1 説明文の基本構造
5 状況・背景	7 例示	2 人物相関図
4 具体と抽象	6 象徴	3 行動描写
3 省略	5 物語の転換点	4 三角ロジック
2 批判的な読み	4 図表と文章	5 詩の表現技法
1 回想	3 想像	6 情景描写
	2 発展的な論の展開	7 要約
	1 人物設定	8 語り手・視点

「読み方を学ぼう」は、「考え方」「学び方」として、さまざまな場面で活用できます。応用したり組み合わせたりしながら、自分の力としてさらに磨き上げ、伸ばしていくしくみになっています。

中学校で身につけた読みの方略を、3年間で22種類設定。国語科の学習のみならず、他教科や日常生活・社会生活における言語活動でも活用できます。

各学年の巻末に、「読み方を学ぼう」の一覧を折り込みで示しました。既習の図解を見直し、繰り返し確認しながら活用できます。

方略を活用できる「読書の広場」の教材へのリンクを示しました。

食感のオノマトペ

岸麻衣代

▶「読書の広場」の教材末の二次元コードから、「読み方を学ぼう」を活用した図解例が見られます。

<https://tbqr.sanseido-publ.co.jp/03gk1/>

読書の広場272ページ「食感のオノマトペ」

語彙の広がり

●理解できる語句と使える語句の量を増やすために、テーマに分けて語彙の広がりを示しました。
●語感を磨き、語彙を豊かにするには、語句どうしの関係やつながり方を理解することが重要です。

接頭語

「接頭語」とは、常に、ある語の前について使われる言葉です。

1 和語の接頭語

- 真性・純粹の意を表す**
 き(生)―生糸、生まじめ
 す(素)―素足、素つどん、素顔、素手、素肌
 ま(真)―真新しい、真上、真顔、真心、真水
 まっ(真)―真っ黒、真っ盛り、真っすぐ
 まん(真)―真ん中、真ん丸
- 大小・多少の意を表す**
 おお(大)―大雨、大いばり、大騒ぎ
 こ(小)―小一時間、小言、小ぶな、小降り
 さ(狭、小)―さ霧、小百合
 ひな(雛)―ひなげし、ひなぎく
 いけ―いけしゃあしゃあ、いけ好かない

接尾語

「接尾語」とは、常に、ある語のあとについて使われる言葉です。

1 和語の接尾語

- 名詞を作るもの**
 かけ(掛)―書きかけ、食べかけ、読みかけ
 がけ(掛)―行きがけ、帰りがけ
 がち(勝)―遅れがち、曇りがち、黒目がち
 け(気)―いやけ、食いけ、寒け
 げ(気)―おとなげ、かわいげ
 さ―明るさ、うれしさ、重さ、おもしろさ
 み―赤み、甘み、うまみ、重み、強み
- 動詞を作るもの**
 がる―うれしがる、寂しがる、強がる
 こける―眠りこける、笑いこける
 だつ―浮き足だつ、寒気だつ、節くれだつ
 ばむ―汗ばむ、気色ばむ
 ばる(張)―角ばる、かさばる、気張る
 ぶる―偉ぶる、学者ぶる、上品ぶる
 めかす―冗談めかす、ほめめかす
 めく―芝居めく、時めく、春めく

各学年、資料編に「語彙の広がり」を新設しました。語句どうしの関係やつながり方に着目した教材を取り上げ、言葉への関心を高め、語感を磨き、語彙を豊かにします。

●強調の意を表す

- おっ―おったまげる、おっはじまる
- か―か細い、か弱い
- かっ―かっ切る、かっさばく、かっとばす
- ず(図)―ず抜ける、ず太い
- つつ(突)―突っ返す、突っ切る、突っ込む
- ど―ど肝、ど根性、ど真ん中
- ひん―ひん曲がる、ひんむく
- ぶち―ぶちあげる、ぶちかます、ぶちまける
- ふっ―ふっかける、ふっどぶ
- なんとなくの意を表す**
 け(気)―けだかい、けだるい
 ほの(仄)―ほの暗い、ほの白い、ほの見える
 もの(物)―もの悲しい、もの静か、もの珍しい
- 敬意を表す**
 お(御)―お暑い、お美しい、お懐かしい
 み(御、深)―み心、み姿、み山、み雪
- その他さまざまの意を表す**
 あい(相)―相語らう、相済まぬ、相對する

●形容詞を作るもの

- がましい―おしつげがましい、晴れがましい
- たらしい―長ったらしい、憎たらしい
- づらい―言いづらい、話しづらい、見づらい
- にくい―書きにくい、使いにくい、読みにくい
- ぼい―大人っぽい、水っぽい、安っぽい
- らしい―いやらしい、わざとらしい
- 副詞を作るもの**
 かがたがた―ご挨拶かたがた、お見舞いかたがた

●形容動詞を作るもの

- げ(気)―うれしげ、悲しげ、苦しげ
- たげ―眠たげ、話したげ
- やか―こまやか、ささやか、にぎやか
- らか―おおらか、清らか、高らか、滑らか

2 漢語の接尾語

- か(下)―管理下、支配下、占領下
- か(化)―一般化、機械化、国際化、情報化
- がい(外)―専門外、問題外、予想外、論外
- かげん(加減)―さじ加減、湯加減、ゆで加減
- かん(間)―学校間、業者間、東京・大阪間

2 漢語の接頭語

- かた(片)―片思い、片言、片時
- から(空)―空いばり、空元氣、空騒ぎ
- あ(亜)**―亜寒帯、亜熱帯、亜硫酸
- か(過)―過呼吸、過酸化、過飽和、過保護
- さい(再)―再発見、再提出、再突入、再放送
- じゅん(純)―純国産、純日本風
- しん(新)―新一年生、新じゃが、新発見
- ぜん(全)―全国民、全世界、全責任
- そう(総)―総崩れ、総辞職、総動員
- ちよう(超)―超特大、超特急、超満員
- はん(反)―反作用、反主流、反体制
- ひ(非)―非科学的、非公式、非常識、非人情
- ひ(被)―被選挙権、被保険者
- ふ(不)―不機嫌、不十分、不必要、不満足
- ぶ(不)―不気味、不器用、不用心
- ぶ(無)―無愛想、無作法
- み(未)―未解決、未完成、未登録、未発表



擬声語・擬態語

「擬声語」は、物音や人・動物の声をまねて表した言葉で、「擬音語」ともいいます。「擬態語」は、もの様子や状態をそれらしく表現した言葉です。「擬声語」「擬態語」をまとめて「オノマトペ」ということもあります。「擬声語」は片仮名で、「擬態語」は平仮名で書き表すことが多いのですが、両者の境目は必ずしもはっきりしていません。

1 擬声語

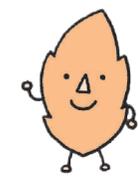
- 動物の鳴き声
 - 鳥 うぐいす \parallel ホーホケキョ、すずめ \parallel チュンチュン、にわとり \parallel コケコッコ
 - 哺乳類 犬 \parallel ワンワン、猫 \parallel ニャーニャー
 - 虫 こおろぎ \parallel コロコロ、すずむし \parallel リーンリーン、せみ \parallel ジージー、ミンミン
- 物が出す音
 - ぶつかる・打つ・たたく 弱 \parallel カタカタ、カタリ、カタン、強 \parallel ガタガタ、ガタリ、ガタン、軽 \parallel コツン、重 \parallel ゴツン
 - こすれる・きしむ カサカサ、ガサガサ、カ

2 擬態語

- 自然現象
 - 天候 どんより、ぼかぼか、むしむし
 - 太陽 かんかん、ぎらぎら
 - 星 ぴかぴか、きらきら、きらり
- 物の様態・性質
 - 固さ・重さ かちかち、がちがち、こりこり、ごつごつ、どしり、がっしり、ずっしり
 - 柔らかさ・軽さ ふんわり、ふっくら、ぶよぶよ、やんわり
 - 材質 ごわごわ、ざらざら、すべすべ
 - 油け・粘着質 ねばねば、ねっとり、ぬるぬる、ぬめぬめ、べっとり、べとべと
- 人の動作
 - 歩く すたすた、てくてく、とぼとぼ、のこのこ、うろろう、ずんずん、よちよち
 - 立つ・止まる さっと、すくっと、びたっと
 - 言う・話す ぼそぼそ、がやがや、ひそひそ、ぶつぶつ、わいわい、べらべら

●人の様子・心情、感覚など

- 眠る うとうと、すやすや、ぐっすり
- 性格 あっさり、おっとり、のんびり、さばさば、はきはき、からっと
- 高揚 いそいそ、うきうき、わくわく
- 失望 うんざり、がっかり、しょんぼり
- 不安・心配 あたふた、おずおず、おろおろ、おどおど、はらはら、くよくよ
- いらだち いらいら、かりかり、むかむか、やきもき、ぶんぶん、むしゃくしゃ
- 疲労 げんなり、くたくた、へとへと
- 気つき はっと、ふと、ふっと
- 放心 ぼんやり、ぼやぼや、ぼけっと
- 程度 めきめき、ぐんと、ぐんぐん
- 平然 けろりと、けろっと、しれっと、ぬけぬけ、いけしゃあしゃあ、おめおめ



各学年、資料編に「語彙の広がり」を新設しました。語句どうしの関係やつながり方に着目した教材を取り上げ、言葉への関心を高め、語感を磨き、語彙を豊かにします。

語感 言葉の使い分け

同じような意味の言葉にも、意味や用法、言葉の続け方に、微妙な違いがあります。「事実」「事情」「事態」「実態」を例にとって考えてみましょう。これらの言葉は、近い意味をもっています。けれども、下の表の□内に、それぞれの言葉を入れてみると、しっくりくる場合と、こない場合があります。「語感」には、言葉の正しさや美しさだけでなく、その言葉が使われる際に適切であるかどうかを感じ取る感覚も含まれます。「語感」は、言葉と言葉の続け方(文脈)の中で磨くことが大切です。

●表の記号の意味

- 違和感がない言葉
- △ そのようにいえるが、どうもしっくりこない言葉
- ― その文脈では使にくい言葉

緊急□発生。	―	△	○	○	△	△	○	―	△	事実
□の推移を見守る。	―	△	○	○	△	△	―	―	○	事情
単純な□にすぎない。	―	○	△	△	○	―	―	―	―	事態
裏にひそむ□。	―	―	△	△	―	△	○	―	△	実態
どんな□にも対処できる。	―	―	△	△	○	―	―	―	○	実情
内部の□に詳しい。	―	―	△	△	―	△	○	―	○	
□を暴露する。	―	―	△	△	―	△	○	―	○	
□を収拾する。	―	―	△	△	―	△	○	―	○	
□を聴取する。	―	―	△	△	―	△	○	―	○	

「思考の方法」一覧

ここに示した「思考の方法」は、この教科書（三年間）の中で取り上げているものをまとめたもので、さまざまな思考の方法の一部です。

●「思考の方法」は、実際に物事を考える場面では、いくつも組み合わせで用いられます。話す・聞く・書く・読む活動の中で、まずは意識することが重要です。意識しながら繰り返し活用して、場面や状況に応じて自由に使いこなせるようにしましょう。

思考の方法

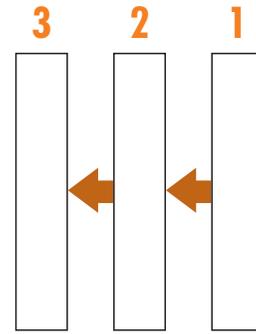
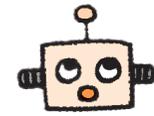


順序立てる

まず……。次に……。最後に……。

第一に……。第二に……。第三に……。

〇〇の順に並べてみると……。



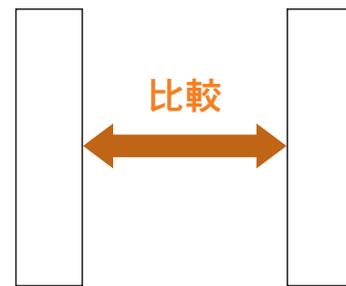
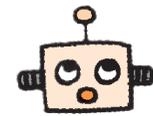
順序を整理したり、並べ替えたりすることによって、内容のまとまりや全体の流れが捉えやすくなり、考えを整理できる。

思考の方法



比較する

〇〇と□□を比べると……。



二つ以上のものを互いに比べ合わせることで、同じところや似ているところ、違うところをはっきりさせることができる。

どのような点で比べるかという比較の観点を明らかにしておくことで、考えがより詳しく確かなものになる。

各教材の学習過程に即して示した「思考の方法」をさまざまな場面で活用できるように、資料編では、汎用的な形で一覧化して示しました。

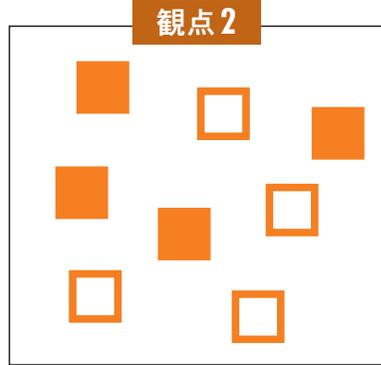
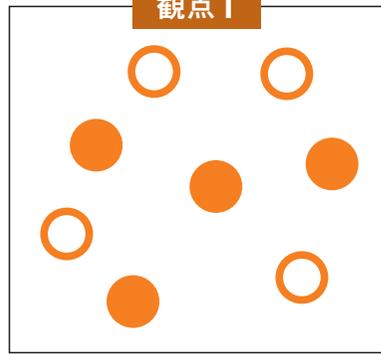
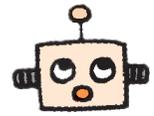
思考の方法



分類する

全体を三つにグループ分けすると……。

〇〇のものと、□□のものに分けると……。



物事をグループ分けすることで、整理され、物事ごとの関係性がわかりやすくなる。分類するときには、観点を明確にする。

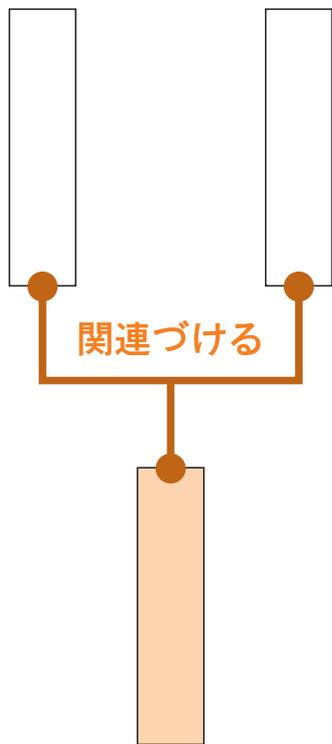
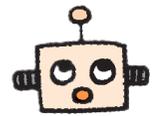
思考の方法



関連づける

〇〇と□□を関連づけると……。

〇〇と結びつけて考えると……。



あるものと、別のあるものをつなげて考えることによって、考えがより確かになったり、それぞれだけではわからない新しい考えや見方を得たり、新しい発想を生んだりする。

思考の方法

抽象化

ちゆうしやうか
抽象化する

つまり○○だ……。

共通する要素や性質を抜き出してまとめることで、中心となるものを把握して、考えを整理できる。

思考の方法

具体化

具体化する

例えば○○だ……。

具体的な例を示すことで、考えがはつきりし、誰でも確かめやすく、わかりやすくなる。

思考の方法

仮定する

もし、○○だったら、どうなるか……。

もし、○○だったら……。

実際にあるものとは違った場合を想定して、見方を広げたり、今あるものよさや意味、効果などを確かめたりする。

各教材の学習過程に即して示した「思考の方法」をさまざまな場面で活用できるように、資料編では、汎用的な形で「一覧化して示しました。」

思考の方法

立場を変える・多角的に見る

別の立場や視点から物事を考えてみる。同じ物事についても、どの立場や視点から見るかによって、別の意味や価値が見いだされる。

円柱かな。
斜め上から見ると……

真横から見ると……

四角かな。

○○の立場に立って考えると……。

○○の視点から見てみると……。

思考の方法

理由づける

根拠
何をもとにそう考えたか
「事実・データ・経験など」

理由づける

考え・主張・意見

物事の原因や考えや主張などの根拠を明らかにする。そうすることによって、物事や考えの確かさを検証したり、説得力を高めたりする。

どうしてそうなるかという……。

何をもとにそう考えたかという……。

目次

1 豊かに
想像する



詩 名づけられた葉 …… 新川 和江



小説 セミロングホームルーム …… 戸森 しるこ

読み方を学ぼう ① 人物設定 新教材

言葉発見① 敬語の意味と種類 ……

グループディスカッション 互いの考えを尊重しながら話し合いを深める 新教材

漢字を身につけよう① ……

領域別教材一覧 …… 6

確かな言葉の力をつけるために——この教科書の使い方 …… 12

※ダイジェストでは、囲みの教材を紹介しています。

2 わかりやすく
伝える



説明 人間は他の星に住むことができるのか …… 加藤 良平

読み方を学ぼう ② 発展的な論の展開

じゃんけんは、なぜグー・チョキ・パーの三種類なのか 新教材

手紙・メール 心をこめてわかりやすく書く …… 渡部 潤一

言葉発見② 言葉のはたらきとコミュニケーション 新教材

漢字を身につけよう② ……

3 ものの見方・
感性を養う



解説 短歌の世界 …… 俵 万智



短歌 短歌十首 ……

読み方を学ぼう ③ 想像 新教材

短歌・俳句 表現の仕方を工夫して豊かに表す 新教材

文法の窓① 用言の活用 …… 75



壁に残された伝言 …… 井上 恭介

私の読書体験 生涯の友と出会う 新教材

漢字を身につけよう③ ……



4 論理的に
考える



評論 一〇〇年後の水を守る 新教材 …… 橋本 淳司

読み方を学ぼう ④ 図表と文章 新教材

言葉発見③ 上位語・下位語 新教材

プレゼンテーション 資料や機器を活用して効果的に発表する ……

漢字を身につけよう④ ……



報告 壁に残された伝言 …… 小川 洋子

私の読書体験 生涯の友と出会う 新教材

漢字を身につけよう⑤ ……

5 古典に学ぶ



古文 枕草子・徒然草 …… 106

表現ブラザ ① 私の「枕草子」「徒然草」 新教材

読み方を学ぼう ⑤ 物語の転換点 ……

コラム あの人の歌 ……



漢文 漢詩の世界 …… 132

漢文の読み方 漢詩の形式 ……

漢字のしくみ① 熟語の構成・熟字訓 ……

漢字を身につけよう⑥ ……

漢文の読み方 漢詩の形式 …… 136

6 情報を関係づける

- 情報 複数の情報を関連つけて考えをまとめる **新教材** 142
- 図表 共生社会に関するデータ **新教材** 144
- 解説 自立とは「依存先を増やすこと」 **新教材** 146
- 書く 投稿文 情報を関連つけて根拠を明確に示す **新教材** 150
- 熊谷 晋一郎

7 読みを深め合う

- 詩 大阿蘇 **言葉発見④** 類義語・対義語・多義語 156
- 三好 達治
- 小説 小さな手袋 **読み方を学ぼう⑥** 象徴 162
- 内海 隆一郎
- 書く 創作文 読みたくなるしくみを工夫する **読書活動⑤** ビブリオバトル **新教材** 175
- 漢字を身につけよう⑦

8 視野を広げる

- 評論 動物園で「できること」 **読み方を学ぼう⑦** 例示 182
- 岡山 英登
- 書く 論説文 構成を工夫して考えを伝える **新教材** 194
- 漢字を身につけよう⑧

9 振り返って見つめる

- 小説 走れメロス **読み方を学ぼう⑧** 心内語 **新教材** 200
- 太宰 治
- 話す・聞く 情報誌 地域の魅力を振り返って **漢字を身につけよう⑨** 219
- 情報誌 365日の紙飛行機 **新教材** 226
- 歌の言葉 [歌] AKB48 228
- 文法のまとめ 228

読書の広場

- 小さな図書館 244
- 小説 ポテト・スープが大好きな猫 250
- テリー・リアリッシュ [訳] 村上 春樹
- 小説 むさぼり **新教材** 256
- 辻 邦生
- 古文 那須与一——「平家物語」より **新教材** 262
- 講演録 見えないチカラとキセキ 浦田 理恵・竹内 由美
- 説明 水田のしくみを探る 岡崎 稔 274

資料編

- 情報を活用する 情報探しの方法 280
- 引用と著作権 286
- 古典芸能に親しむ 歌舞伎の世界 288
- 歌舞伎 外郎売 290
- 社会生活に生かす メモを活用する 294
- 話し合いの形式を選ぶ 296
- 辞典を活用する 298
- 手紙・はがき・メールの書き方 300
- 原稿用紙の使い方・推敲の仕方 302
- 参考文献 304
- 日本語学名作集 308
- 学習用語辞典 314
- 語彙の広がり **新教材** 318
- 「思考の方法」一覽 **新教材** 322
- 二年生で学ぶ音訓 322
- 二年生で学ぶ漢字字典 322
- 小学校六年生で学習した漢字 322
- 常用漢字表音訓一覽 336
- 常用漢字表付表 337
- 「読み方を学ぼう」一覽 338
- 折り込み 351



「私」を語り手に、クラスの友達に伝えるような語り口で、人物どうしの関わりや心情の機微を描いた、教科書のための書きおろし小説。作者は、『ぼくたちのリアル』（講談社、二〇一六年）でデビューし、多くの新人賞を受賞した新進の児童文学作家。

セミロングホームルーム

戸森 しるこ



目標

- 人物の設定の仕方を捉え、表現や構成の工夫とその効果について考える。
- 作品を読んで考えたことを共有し、自分の考えを広げたり深めたりする。

各教材の冒頭に目標を明示し、見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

その日の四時間め、黒岩先生は少し遅れて教室にやってきた。瀬尾くんが三時間めの体育で貧血を起こしたからだ。瀬尾くんは少し青い顔をして、窓際まどぎわの後ろから二番めの席に座った。

四時間めはロングホームルームだった。来週の校外学習について最終の打ち合わせを行って、そのあとは今度の席替えせきがの方法をみんな考えてみる。

「うお。」

妙な声をあげたのは、私の隣の席のトリノ。トリノといってもイタリアの都市名ではなく、漢字だと「鳥野」だ。ちなみに私とトリノは窓際まどぎわの一番後ろに座っている。つまり、トリノの前の席は瀬尾くんだ。

「今の声は鳥野か。どうした？」

黒岩先生が前から聞く。

「いや、なんでも。」

「なんでもあるのかないのか、最後までちゃんと言いなさい。」

「なんでもないです。」

トリノはそう言ったけど、なんでもなくないことに、私だけが気づいた。

私はトリノの机の上に手を伸ばし、彼のノートの隅にメッセージを書きこんだ。

『ブローチかな。』

すると、トリノはその隣にすかさずこう書きこんだ。

『そんなわけあるか。』

その下に、私は書きこみを続ける。

『ホンモノ？』

『だな。』

私たちは顔を見合わせた。

「その二人、前を向け、前を。」

黒岩先生がトリノと私を注意した。

「すみません。」

代表してトリノが謝る。トリノが先生に叱られてしまった。

『ごめん。』

懲りずに書きこむと、トリノは肩をすくめて少し笑った。

そんなトリノの前の席に座っている瀬尾くんの背中を、私はもう一度、じっくり見た。



5

6 漢 妙な

3 【ホームルーム】学校で、先生と生徒が、学校生活のいろいろな問題を話し合う時間。

10

左7 意 すかさず

左18 意 懲りる

左18 意 肩をすくめる

▶ 著者のエッセイをお読みいただけます。

https://tb.sanseido-publ.co.jp/03gkpr/kotomana_12/

そこには、大きなセミが止まっていた。

瀬尾くんの左肩の少し下に、こっそり止まっている、一匹のセミ。トリノと私の席の位置からしか見えない。ちなみに瀬尾くんの右隣の女子は、風邪かぜで欠席である。

よく見かける普通のセミだけれど、私にはその名前、つまりセミの種類がわからない。だけどトリノはわかっているはずだ。小六の夏休みに、トリノは「セミの一生」というタイトルで自由研究をしていた。あの夏、セミの体のつくりから抜け殻の見つけ方まで、彼は熱心に調べていたから。あの研究には金賞がついて、校外の展覧会に出品されたのだ。

瀬尾くんはどこからセミをつけてきたのか。保健室からこの教室までの道のりっていったい何が？ わからないけれど、セミは間違いなくここにいる。

先生たちは結果よりも経過が大切だと口をそろえて言うけれど、それは思うように結果が出なかったときの慰めなぐさであって、真実ではないと思う。真実はこうだ。

結果と経過は同等に大切である。

つまり、「瀬尾くんの背中にセミ」という結果と、「瀬尾くんの背中にセミ」という結果を生み出した経過は同等に大切なのであり……。

「竹内、ぼんやりするな。」

今度はソロで注意されてしまった。トリノが呆れ顔あきでゆっくりと首を左右に振る。

瀬尾くんがセミを連れてきたことが、クラスみんなに知られたらと考えると、非常に気が重い。瀬尾くんはセミをネタにできるようなタイプではないし、セオとセミとをかけて妙なあだ名が誕生してしまっても困る。とにかくここはセミから瀬尾くんを守らなければ。恐らくトリノもそう考えて、あえて口に出さなかったんだらう。トリノは真面目でいいやつだからな。

20

だいたいようぶ、時間はある。このロングホームルームの時間を利用して、対処方法を考えよう。

そう考えたとたんに、時間はそれほど残されていないかもしれないことに気がついた。

セミが急に鳴き始めたらどうすれば？

突然ミーンミーンと鳴き始めたら、デリケートな瀬尾くんは、驚いてあられもない悲鳴をあげてしまうかも。いつも控ひかえめで無口な瀬尾くんが、こんなところで妙な声をあげてしまったら、みんなが騒さわぎ出すにちがいない。それは避けたい。この一匹のセミさんに、私たちの今日一日の運命がかかっている。

5

横を見ると、トリノは真剣な表情をして、あごに手を当ててなにやら考えこんでいる。メガネの奥の目が、目の前のセミを鋭くにらんでいる。私よりもずっと頭のいいトリノは、頭をフルスヒードで回転させ、うまくこの場を切り抜ける方法を探しているようだ。

10

「竹内、先生の話、聞いてるか？」

またもや黒岩先生に叱られた。

「聞いてます。先生、今日のロングホームルーム、残りの時間は外で遊びませんか？」

クラス中がどっと笑った。
気を利かせたつもり私の提案に、トリノはがっくりと肩を落とし、小声でつぶやいた。

15

「不自然すぎるだろ。」

この教室から誰もいなくなれば、瀬尾くんだけ引きとめておいて、その間になんとかできると思ったのに。だめか。

ここからホームルームの司会進行が学級委員に替わる。黒岩先生はぶりぶりしながら、私とトリノの後ろに折り畳み椅子いすを出してきて、そこに座った。そこで監視かんししようという魂胆こんたんだな。

20

右20 意 経過 ↓ 類 経緯
右12 意 同等 ↓ 類 同格
意 あえて ↓ 類 しいて

左20 意 監視
左10 意 切り抜ける ↓ 類 脱する
左5 意 控えめ ↓ 類 つつましやか
左4 意 あられもない
左2 意 デリケート

「うおっ。」

さっきのトリノと同じような声を出して、黒岩先生は私たちの後ろで硬直している。早くもセミに気がついたらしい。

「どうかしました?」

学級委員が黒岩先生に聞く。先生は後ろから答えた。

「な、なんでも。」

「なんでもあるのかないのか、最後までちゃんとやってください。」

冷静かつ絶妙な学級委員の切り返しに、クラス中が大爆笑だ。黒岩先生は引きつった笑い顔で頭をかいている。

さて、仲間が三人に増えた。増えたところで、どうしたものか。教室の後ろの隅で、私たちは三人とも困り果てている。

黒岩先生はトリノを信頼しているので、彼がなにか考えをめぐらせていることを察したんだと思う。ガラスのように繊細な瀬尾くんを誰よりも理解しているのは、おそらく黒岩先生、あなたですね。

そのとき、なにか気配を感じたのか、瀬尾くんが右手を伸ばして左肩のあたりを触った。



10 漢 大爆笑

私たち三人は、「ひゅっ。」と息をのんだ。

けれど、そのセミは思いの外凶太い性格だった。すぐ近くを瀬尾くんの手がうろろしているのにもかかわらず、微動だにせずおとなしく止まっている。なんて鈍感なんだろう。少しは瀬尾くんの繊細さを見習ってほしいものだ。

私たち三人は、「ふうっ。」とため息をもらした。

「蛻の殻って、言うじゃん。」

突然、トリノが小声で言った。

「言うね。教室は蛻の殻だった。なぜならインフルエンザの大流行で学級閉鎖したからだ。」

「例文を作れなんて言ってない。蛻って、どういう意味か知ってる?」

「さあ。もぬけ……。まぬけ、的だ。」

トリノは軽蔑した目で私を見ると、ノートの隅に書きこんだ。

『セミとかへビとかの、抜け殻のこと』

へえー。と、感心していると、後ろから手もとをのぞきこんできた黒岩先生が、同じように

「へえー。」と言った。

「じゃあ、多数決により、次の席替えはくじ引きで決めます。」

学級委員がそう言った。いつのまにか多数決が実施されたらしい。トリノと席が離れるのはさみしい気もする。

ロングホームルーム終了まで、あと二十分。残り時間は自習になりそうな気配だ。学級委員が優秀なので、ロングホームルームはいつも時間が余ってしまう。全然ロングじゃない。これが本当のセミロングホームルーム。

8 漢 閉鎖

「読むこと」教材の脚注欄には、辞書などを活用して意味を調べる語句を提示するとともに、類義語や対義語を示し、言葉の関係性を捉えながら語彙力を高められるようにしました。

- 右3 意 硬直
- 右10 意 冷静 ↓ 類 沈着
- 右17 意 絶妙
- 右17 意 繊細
- 左1 意 息をのむ
- 左2 意 思いの外 ↓ 類 案外
- 左2 意 凶太い
- 左3 意 微動
- 左3 意 鈍感 ↓ 対 敏感

私がかばかしい考えにとらわれているうちに、黒岩先生は窓の外をちらっと見ると、咳払いをしながら教室の前に戻って行ってしまった。

先生から「頼んだぞ。」と言われていている気がした。

ついにトリノが動いた。左の窓をゆっくりと開け始めたのだ。静かに、静かに、トリノは自分の側の窓が開くように、窓を滑らせている。がんばれ、トリノ。自習が始まってしまったら、クラスのざわめきが消えてしまふ。

トリノは音をたてないように立ち上がると、瀬尾くんの背中にそろそろ手を伸ばし、そこに止まっているセミを、人さし指と親指とでそっとつまんだ。

そして次の瞬間、光の速さで外に放り投げた。

「ばいばい。」

途中まで身動きひとつしなかったセミは、放り出された空中で我に返ったように羽を広げ、ジジッと鳴きながら、そのまま遠くまで飛んでいった。その去り際の鳴き声は、クラスの喧騒の中で無事にかき消された。

セミから瀬尾くんを守りぬいた私たちは、握手でも交わしたい心境で、詰めていた息を大きく吐き出したのだった。やりましたよ、黒岩先生。

そのとき、瀬尾くんが初めて振り返った。瀬尾くんはトリノを見たかと思うと、小さな声だったけれどはっきりと、

「ありがとう。」

そう言った。

私とトリノは驚いて、なにも言えなかった。トリノは立ったまま座れなくなっている。

「読むこと」教材の末尾には「私の本棚」を設け、教材との関連を明示し、多様な観点から本を紹介しました。

山 私の本棚

学校を舞台に描く
友情と信頼

ぼくたちのリアル
戸森 しるこ



ユウキ
伊藤 遊



二十四の瞳
壺井 栄



「座っていいぞ、鳥野。」

黒岩先生が妙な注意の仕方をした。

トリノは人さし指でずれたメガネを直すよ、ようやく先生の言葉に従った。

〈この教科書のための書きおろし／絵・佐藤 真紀子〉



【著者】戸森 しるこ(ともり しるこ)

一九八四(昭和五九)年
作家。埼玉県生まれ。

【著書】『ぼくたちのリアル』『十一月のマーブル』『ゆかいな床井くん』など

新出漢字

20 妙 ▼ミョウ

微妙

22 殻 ▼カク

地殻

23 剣 ▼ケン

剣の舞

24 爆 ▼バク

爆音

25 鎖 ▼サ

鎖つなぎ

右6 意 ざわめき
右9 意 瞬間 ↓ 類 瞬時
右11 意 我に返る
右12 意 喧騒
右14 意 心境 ↓ 類 気持ち

学びの道しるべ

「読むこと」教材の「学びの道しるべ」は、見開き2ページで丁寧に学習過程を示しました。学びのステップを明確にすることで、主体的・対話的で深い学びを実現します。

目標

- 人物の設定の仕方を捉え、表現や構成の工夫とその効果について考える。目標を確かめて作品を読んで考えたことを共有し、自分の考えを広げたり深めたりする。学習の見通しをもちます。

内容を整理する

情報を整理・確認して、文章の内容や構成をつかみます。自学自習にも対応した課題を設定しています。

1 この話を読んで感じたことを、作品の具体的な表現と結びつけながら発表し合おう。

「学びの道しるべ」の課題に関連して学習できる、さまざまな読みの方略を取り上げました。▶ 30ページ

2 この話の登場人物を書き出し、人物どうしの関係や、それぞれの言動について整理しよう。
↓ 読み方を学ぼう 人物設定

読みを深める

文章を詳しく読み、対話をとおして内容や構成・表現の仕方についての理解を深めます。

3 「トリノは立ったまま座れなくなっている。」(26ページ・20行め)とあるが、それは、なぜか。そのときのトリノの心情について、考えを発表し合おう。

4 この話の「主人公」は誰だと考えるか。理由とあわせてグループで話し合い、自分の読みを深めよう。
↓ 思考 多角的に見る

自分の考えを深める

文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深めたり、広げたりします。

5 この作品の表現や構成の工夫とその効果について、考えたことを120〜150字程度の文章に書いてまとめよう。また、考えを共有し合って、深めよう。

学びを振り返る

自分の学習を振り返って評価し、これからの学習へ生かします。



目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめよう。

振り返りのキーワード 人物の設定の仕方・視点・主人公

+α

学びを広げる

「セミロングホームルーム」を参考に、身のまわりで起こった小さな「事件」について、友達に伝えるような語り口の短い物語を書こう。

ステップ1〜5までの学習を活用して取り組み、学びを更に広げたり、深めたりします。

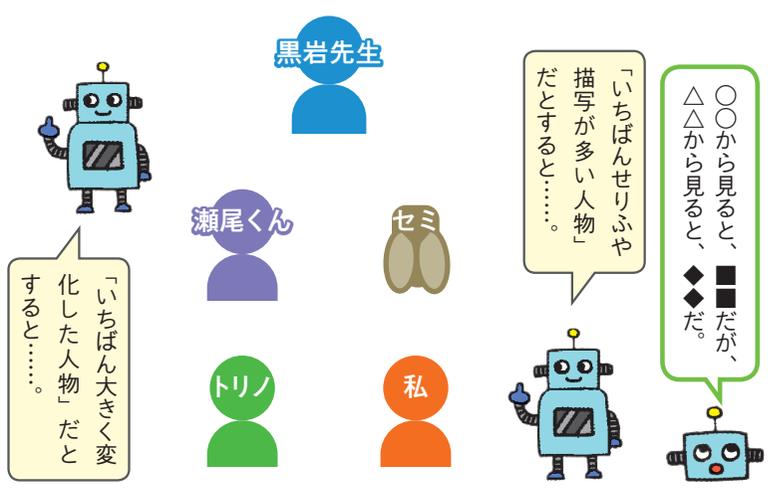
この教材での学びをこれからの学習や読書へつなげよう。

思考の方法

多角的に見る

○△から見ると、■だが、△△から見ると、◆だ。

「いちばんせりふや描写が多い人物」だとすると……。



「主人公」をどのような人物と捉えるかをさまざまな角度から考えることによって、自分の考えが明確になる。

「学びの道しるべ」の課題と関連つけて、考えを整理したり深めたりする方法を「思考の方法」として示しました。

語彙を豊かに

動作の速さを表す表現

「光の速さで外に投げた。」(26ページ・9行め)の「光の速さで」は、とてもすばやい動作を光の進む速さにたとえた表現です。

次のような表現も、動作の速さを表すものです。これらの表現と比べてみましょう。

視覚

- 一瞬のうち
- 瞬時に
- 目にもとまらぬ速さで
- 手早く
- 迅速に

聴覚

- あっというまに
- あれよあれよというまに

「光の速さ」って いろいろいいね。



「語彙を豊かに」では、語感を磨き語彙を豊かにするために、さまざまなテーマで教材に関連した語彙を取り上げました。

人物設定

人物像と人物相互の関係

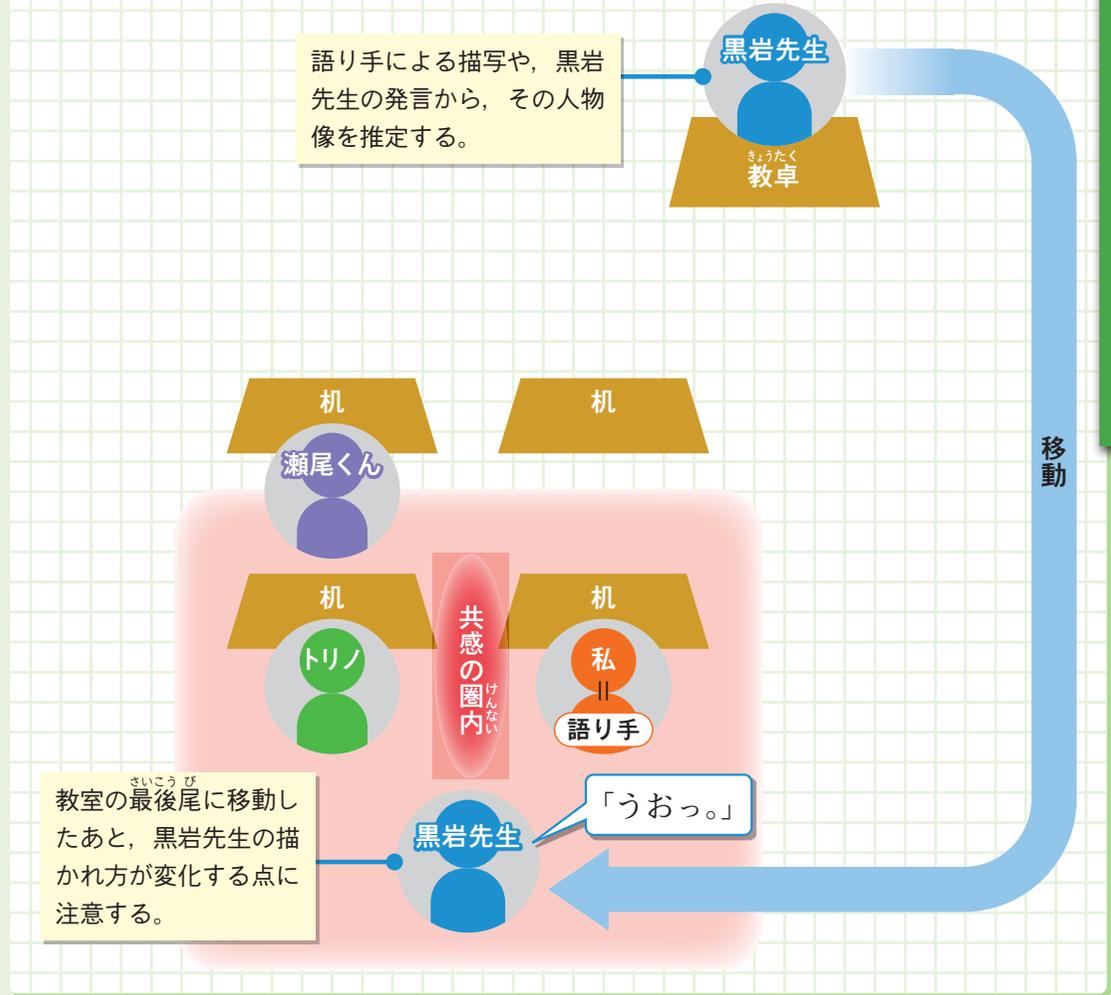
小説の登場人物は、作者の設定した役割を担って、互いに関わり合います。まず、個々の登場人物の年齢・性格などの設定（人物像）を理解し、次に、登場人物の相互関係や変化を捉えることが大切です。

「セミロングホームルーム」では、黒岩先生が、どのように変わっていくでしょうか。それが、他の登場人物との関係にどう影響しているでしょうか。

▼人物設定の仕方を捉えると、小説の内容とストーリー展開の仕掛けをより深く理解できる。

「読むこと」教材の学習過程に即して、「読み方を学ぼう」を設け、文章を正確に読み解き、深く読み味わうための読みの方略を、図解でわかりやすく示しました。

「セミロングホームルーム」における人物設定



読書の広場256ページ「むさぼり」

3年	2年	1年
⑥ 状況・背景 おくのほそ道 故郷	⑧ 心内語 走れメロス	① 説明文の基本構造 クジラの飲み水 空中ブランコ乗りのキキ
⑤ 具体と抽象 俳句の世界／俳句十句 フロン規制の物語	⑦ 例示 動物園でできること	② 人物相関図 字のない葉書
④ 省略 俳句の世界／俳句十句	⑥ 象徴 小さな手袋	③ 行動描写 玄関扉
③ 批判的な読み 問の文化	⑤ 物語の転換点 平家物語	④ 三角ロジック それだけいい
② 発展的な展開 人間の星に住むことができるのか	④ 図表と文章 一〇〇年後の水を守る	⑤ 詩の表現技法 トロツキ
① 回想 握手	③ 想像 短歌の世界／短歌十首	⑥ 情景描写 意味と意図
	② 発展的な展開 人間の星に住むことができるのか	⑦ 要約 少年の日の思い出
	① 人物設定 セミロングホームルーム	⑧ 語り手・視点

「読み方を学ぼう」は、「考え方」「学び方」として、さまざまな場面で活用できます。応用したり組み合わせたりしながら、自分の力としてさらに磨き上げ、伸ばしていくしくみになっています。

中学校で身につけたい読みの方略を、3年間で22種類設定。国語科の学習のみならず、他教科や日常生活・社会生活における言語活動でも活用できます。

各学年の巻末に、「読み方を学ぼう」の一覧を折り込みで示しました。既習の図解を見直し、繰り返し確認しながら活用できます。

方略を活用できる「読書の広場」の教材へのリンクを示しました。

▶「読書の広場」の教材末の二次元コードから、「読み方を学ぼう」を活用した図解例が見られます。

<https://tbqr.sanseido-publ.co.jp/03gk2/>



話す・聞く

グループディスカッション

互いの考えを尊重しながら話し合いを深める

各学年の第1単元に「グループディスカッション」を設けました。話し合いの方法を学年のはじめに学習することで、さまざまな場面で活用できます。

少人数で話し合う「グループディスカッション」は、考えを広げたり深めたりするのに役立ちます。話し合いをよりよくするためには、どのようなことに気をつけるとよいでしょうか。

ここでは、「話し合いを深める」ための「話し合いのこつ」について学んでいきましょう。



グループディスカッション

あるテーマについて、異なる立場や考えの人たちが少人数で意見を交換すること。



目標

- 互いの立場や考えを尊重しながら話し合いを深めるための方法を理解し、活用する。
- 相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる。

各教材の冒頭に目標を明示し、見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

学習の流れ

- 1 「話し合いのこつ」を見つける
 - 2 グループで話し合いをする
 - 3 話し合いでの発言を振り返る
- 学びを振り返る

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、冒頭に「学習の流れ」を示し、各教材の学習活動の流れがひとめでわかるようにしました。

1 「話し合いのこつ」を見つける

次の話し合い記録から、「話し合いを深める」ための「話し合いのこつ」を見つけましょう。特に、太字の発言のはたらきや効果を考えましょう。



テーマ おいしいチャーハンの作り方を知る
なら、本がよいか動画がよいか

石原 私は動画がいいかなあ。
野村 私も絶対、動画のほうがいい。
松山 どうして？
野村 **★**だって、見たらすぐにわかるから。
石原 そうそう。**◆**動画はイメージしやすいってことだよね。
松山 ああ、なるほどね。
田中 **◇**でも、動画って使いにくいときもあるよ。
野村 どうしてそう思うの？
田中 **★**動画だと知りたい手順まで飛ばしながら見ないといけないし、何より動画を見るためのプレーヤーがないと見ることすらできないから。

松山 **◆**つまり、本だったら、自分の知りたい情報だけを、自分の好きなタイミングで、何度でも見ることができるとことね。

石原 **★**確かに、本のほうが自分に合わせて読むことができるっていうのはわかるよ。**◇**だけど、動画にしかないよさもあるよね。

田中 例えば、どんなこと？

石原 本は文章で書かれているから調理の様子がわかりにくいんだけど、動画だったら手つきや火加減が一目瞭然じゃなかな。

野村 そうそう！ そういうことが言いたかった！

松山 うんうん。本と動画には、それぞれ違うよさがあるっていうことだね。

田中 なるほど。動画にもいいところがあるね！

…

2 グループで話し合いをする

話し合いの質を高めるための「話し合いのこつ」を、3年間の系統性を意識して配列しました。

次の「話し合いのこつ」を意識して、グループで話し合いましょう。

反論

◇ 反対意見を述べる

例「でも、……」

理由づけ

★ 意見の理由を述べる

例「……だから」

受容

☆ 考えを受け入れる

例「……はわかるよ」

言い換え

◇ 詳しく言い換える

例「それって、……だよね」

テーマ例

- ◎ おいしいチャーハンの作り方を知るならば、本がよいか動画がよいか。
- ◎ 漫画作品を読むなら、紙の本がよいか電子書籍がよいか。
- ◎ 大切な思いを伝えるには、直接言うのがよいか、手紙(メールなどを含む)がよいか。
- ◎ もしもタイムトラベルできるとしたら、過去と未来どちらに行きたいか。



この教科書に出てくる「話し合いのこつ」と発言例

話し合いを「つなげる」(二年)

- 提案 「だったら、……はどうかね」
- 確認 「……ってどう思うの？」
- 質問 「どうして？」
- 促し 「○○さんはどう？」

話し合いを「深める」(二年)

- 反論 「でも、……」
- 理由づけ 「……だから」
- 受容 「……はわかるよ」
- 言い換え 「それって、……だよね」

話し合いを「計画的に進める」(三年)

- 計画 「話し合う順番は……」
- 展開 「次は、……について話そう」
- 軌道修正 「話を元に戻そうよ」
- 整理 「意見をまとめると……」

*うなずく、相づちをうつ、顔を向けるなど、相手が話しやすい聞き方を心がけましょう。

八人一組になり、四人が話し合っている間、残りの四人は話し合いを観察します。話し合いの中で効果的だった発言と発言者をメモしましょう。

発言メモの例

発言	発言者	こつ	効果
動画はイメージしやすいってことだよね。	石原	言い換え	前の人の考えが詳しくわかった。
でも、動画って使いにくいときもあるよ。	田中	反論	反対の意見について考えられた。
どうしてそう思うの？	野村	質問	理由を引き出せた。

3 話し合いでの発言を振り返る

- 発言メモを参考にして、具体的な発言に着目した振り返りをしましょう。
- どのような「話し合いのこつ」が出てきたか。
- 話し合いを深めるための「話し合いのこつ」のうち、特に効果的だったのはどれか。

学びを振り返る

目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめましょう。

教材の最後には学習を振り返る機会を設け、身についた力を自分で診断・評価し、次に生かすことができます。

「話し合いのこつ」とその効果は、話し合い後に記入しましょう。全ての発言について記入する必要はありません。また、自分で見つけたこつも書いてみましょう。

「話し合いのこつ」は、それぞれに効果的なタイミングがあります。どのようなときに、なんのために使うのかを意識しながら、一年間を通して話し合いに生かしましょう。

小川 洋子

生涯の友と出会う

本との出会いは不思議です。なぜ自分がそれを手に取ったのか、多くの場合、理由はよくわからないのです。背表紙と目が合い、ふと心ひかれた、という以外に説明のしようがありません。

『アンネの日記』と出会ったときが、まさにそうでした。お父さんからプレゼントされた日記帳に、アンネが日記を書き始めたのと同じ、十三歳の頃でした。

なんて自由なのだろう。私は新鮮な驚きを覚えました。隠れ家に閉じこめられているにもかかわらず、アンネは内面を深く掘り下げ、そこに広がる自分だけの世界を、自在に探索していました。大人との対立や、将来への憧れや、死への不安を言葉にすることで、生かされている意味について、まっすぐに考え続けていました。

自分も胸の内に抱えていながら、正体をつかめずにいた

ものを、アンネが代わりに語ってくれている。私はそう思いました。時と場所を越え、会ったこともない少女と、友達になれたかのようでした。

私が言葉の力を知り、それを使って人間を表現したいと思うようになったのは、『アンネの日記』のおかげです。生涯の友として、今もすぐ手の届く場所に置いてあります。

〈この教科書のための書きおろし〉

作家の方に自身の読書体験を語っていただきました。読書への興味を喚起し、読書の意義や効用についての理解を深めます。

▶ 著者のエッセイをお読みいただけます。

https://tb.sanseido-publ.co.jp/03gkpr/kotomana_12/



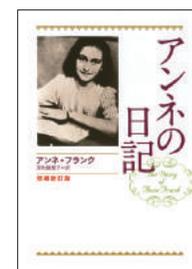
小川 洋子 (おがわ ようこ)
1962 (昭和37) 年—
作家。岡山県の生まれ。

5

10

5

アンネの日記
アンネ・フランク
[訳] 深町 眞理子



アンネが書いた日記
(オランダ「アンネ・フランクの家」所蔵)

小川洋子さんの本

博士の愛した数式

小川洋子



ミーナの行進

小川洋子



ことり

ことり 小川洋子



「水ジャーナリスト」としてさまざまな発信を続ける著者が、今、地球が直面している「水問題」について論じた新しい評論文教材。ふだんの生活の中で使っている「見える水」だけでなく、物を作るために必要な「見えない水」も「バーチャルウォーター」にも目を向け、持続可能な水資源の利用について考える。

100年後の水を守る

橋本 淳司

目標

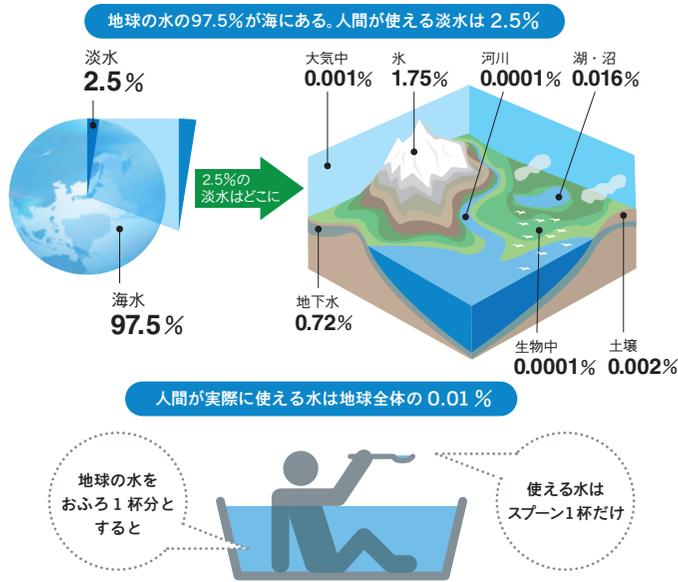
- 文章と図表などを結びつけて、筆者の考えを捉える。
- 文章を読んで理解したこと、知識や経験とを結びつけて、自分の考えを広げる。

各教材の冒頭に目標を明示し、見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

地球は「水の惑星」だ。私たちの周りには、たくさんの水がある。水は雲から雨となって大地に降り、地上で川の流れを作り、海に注ぎ、水蒸気になって再び大気に戻り、雲になる。水は姿を変えながら地球をめぐっている。私たちが飲んだり、顔を洗ったりしている水も、こうした循環の中にある。地下にも大量の水が蓄えられているし、北極や南極などにある氷河や氷山も水だ。「水の惑星」地球には、一四億立方キロメートルという、想像できないほどの水がある。

この「水の惑星」に住みながらも、私たちは今、深刻な水不足に直面している。なぜ、水が不足してしまうのだろうか。

地球の水の九七・五パーセントは海にある。つまり、人間が飲んだり、使ったりする淡水は、地球の水全体の二・五パーセントしかないことになる。しかも、その淡水の七〇パーセントは凍っている。凍っていない淡水



のほとんどは地下水であり、そのうち半分が地中深くにあって、利用することができない。人間が利用できる淡水は、浅い層にある地下水と川や湖の水であり、それらは地球全体の水の〇・〇一パーセントにすぎない。このように、地球に存在する水の中で、実際に使える水は限られている。そのうえ、地球にある水は姿を変えて循環しており、その総量は増えることがないどころか、汚染が進んで使える水の量は減り続けている。

一方で、人口増加と産業の発達によって、使う水の量は増え続けている。一九六〇年には三〇億人だった人口が、二〇〇九年には二倍以上に増え、二〇五〇年には九七億人になると予想されている。人間は、生命を維持するために必要な最低限の水分の他、手洗いや洗面などの衛生を保つための水を含めて、一日一人当たり五〇リットルの水が必要とされている。飲み水や体を洗う水などの、ふだんの生活の中で「見える水」は、人口の増加にしたがって、当然増えるわけである。

それだけではない。使っていることが意識されにくい「見えない水」も増加し続けている。余り気づかないことかもしれないが、毎日食べている御飯のもとである米、パンの原料となる小麦を育てるときにも、水は必要だ。このように、何かを作るときに必要な「見えない水」のことを「バーチャルウォーター（仮想水）」という。

例えば、食パン一斤を作るには、小麦粉三〇〇グラムを使う。その小麦粉三〇〇グラムを作るには、六三〇リットルの水が必要となる。肉の場合は、もっと大量の水が必要だ。鶏や豚や牛は水を飲むし、さらに、水を使って育てた穀物を餌にしているからだ。家畜が育つまでに使った水を計算すると、豚肉一〇〇グラム当たり五九〇リットル、牛肉一〇〇グラム当たり二〇六〇リットルになる。

20

15

10

5

- 右4 意 循環
- 左8 意 維持 ↓ 類 保持
- 左8 意 最低限 ↓ 類 最小限
- 左8 意 衛生

- 右4 漢 循環
- 左17 漢 鶏
- 左17 漢 豚
- 左16 漢 一斤

▶ 著者からのメッセージ動画をご覧ください。
<https://tb.sanseido-publ.co.jp/03gkpr/contentintro/#02>

食べ物を作るのには、たくさんの水が必要だ。実際、地球にある利用可能な淡水のうち、七〇パーセントが、農業に使われている。

アメリカ中西部には世界有数の穀倉地帯があり、トウモロコシ、小麦、大豆などが大量に栽培されている。広大な農場には膨大な水が必要となるが、ここにはオガララ水系という世界最大級の地下水脈が走っている。その地下水をくみ上げて、スプリンクラーで畑にまいているのである。そのため、地下水は一秒間に三八万リットルずつ減り続けている。雨などによって地表から地下水脈に入ってくる水と、くみ上げられて出ていく水とのバランスがとれず、この巨大な地下水脈もこのままでは枯れてしまうといわれている。

水が必要なのは、食べ物を作るときだけではなく。工業製品を作るときにも水が使われる。例えば、鋼鉄を一キログラム作るには一〇〇リットルの水が必要だ。工業用水の使用量は、発展途上国において、増加の一途をたどっており、今後、より多くの国々が工業化するにつれて、世界における工業用水の利用量は急激に増えるだろう。

このように、私たちが深刻な水不足に直面している原因は、「見える水」だけでなく「バーチャルウォーター」の使用量も増加しているからである。

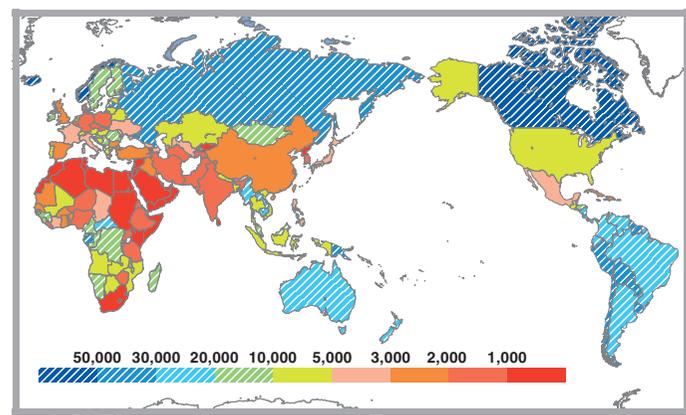
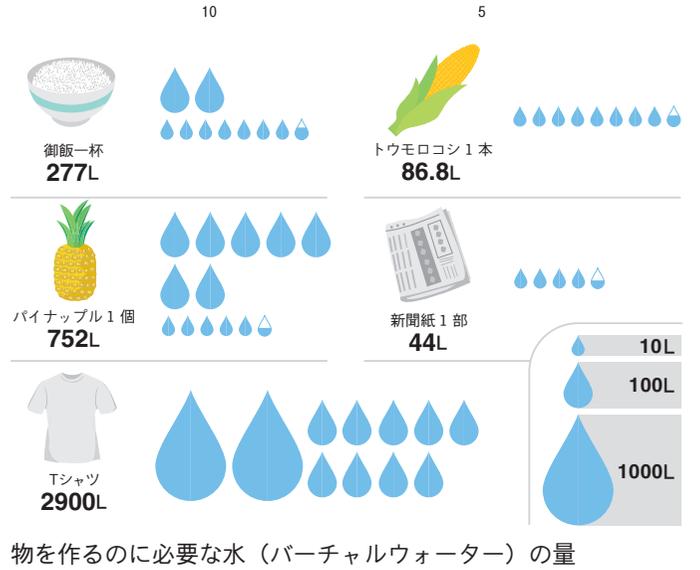
日本人が水のことと比較的のんびりしているのは、四方を海に囲まれた島国に住んでいるからだ。だが、日本は水を自給できているわけではない。それどころか、実は、世界有数の水輸入国なのだ。

日本ミネラルウォーター協会の調査によると、二〇一七年には、三五九万四三〇五キロリットルのボトル水が流通したが、そのうち三二五万四七八キロリットルが国産で、三三万九五一七キロリットルが輸入品だった。日本人一人が海外から輸入しているボトル水の量は、二・七リットルということになる。

さらに、日本は世界最大の農作物純輸入国だ。日本の食料自給率は、四〇パーセント前後とかなり低い。輸入している食品を作るのに必要な水を計算してみると、年間六二七億トンになる。これは、日本人が一日一人当たり一・四トンの水を輸入していることになる。

一方で、日本の主な輸入相手国である、中国、アメリカは、水の消費量が多く、水不足の状況にある。この先も同じように大量の食料を日本に輸出し続けてくれるという保証はない。かといって、現在輸入している食料を自国で生産するための水は、日本にはない。日本は水の豊富な国というイメージがあり、日本に住んでいると、水の危機についてあまり実感がわかないかもしれない。しかし、日本の食生活は、確実に外国の水に頼っている。

こうした水問題に対して、私たちができることは、水の循環になるべく負担をかけない水の使い方をする事だ。



世界の一人当たりの水資源の量 (FAO <国連食糧農業機関> 「AQUASTAT」の2017年6月時点の公表データをもとに作成)

「読むこと」教材の脚注欄には、辞書などを活用して意味を調べる語句を提示するとともに、類義語や対義語を示し、言葉の関係性を捉えながら語彙力を高められるようにしました。

- 右3 意 穀倉
- 右8 意 バランス
- 右18 意 一途
- 右19 意 四方
- 右20 意 自給
- 左15 意 実感
- 左14 意 危機
- 左13 意 有数
- 左12 意 指折り
- 左11 意 アンバランス
- 左10 意 類均衡
- 左9 意 類アンバランス
- 左8 意 類ピンチ
- 左7 意 類現実感

5 【純輸入国】輸入額が輸出額を上回っている国のこと。

9 漢 枯れる
8 漢 巨大
4 漢 膨大
4 漢 栽培

まず、「節水」から考えてみよう。節水は各家庭でできる。一人一人がすぐに実行でき、なおかつ、まとまると大きな力になる。例えば、歯磨きの場合、口をすすいでいるときに水を流しっぱなしにすると、三〇秒間で六リットルの水が流れていく。実際には、コップ一杯あれば十分に口はすすげる。つまり、五・セリットルの水は捨ててしまったことになる。

「バーチャルウォーター」も節水の対象となる。日本は食料を世界中から買い集めている一方で、世界一の残飯大国でもある。捨てられる食べ物は、供給量の三分の一にのぼる。日本の食品廃棄物の発生量は、年間二八四二万トン。仮に、捨てられたものが御飯だとすると、それを生産するのに使われる水の量は、年間一〇五一億五四〇〇万トンになる。一人当たり一日二・三トンの水を捨てているのと同じことだ。食べきれない分だけ作り、食べれば無駄にはならない。これが最大の節水なのである。

次に、雨を貴重な水資源と捉え、大切に賢く使う「雨水利用」の方法を考えることも大切だ。一つの住宅や一つのビルでためられる雨水は少量であっても、地域全体としては大きな効果があるからだ。仮に東京都内の全ての一戸建て住宅が屋根に降った雨をためたとすると、年間一億三〇〇〇万トンの水が確保できる計算になる。これは利根川上流の巨大ダムが東京都に供給している水量を上回る。

雨水を蓄えるということでは忘れてはならないのは、森林のはたらきだ。「緑のダム」と呼ばれる森林は、雨を受け止め、土壌に染み込ませ、ろ過し、地下水として蓄える。また、水を張った田んぼにも地下水涵養の機能があり、平均して、一日一ヘクタール当たり二万トンの水を土壌に浸透させている。森林も水田も、貴重な地下水を育む場所なのだ。

また、日本では、使った水を繰り返し使う「再利用」の技術が進んできている。工業用水の

再利用は、一九六〇年代には三五パーセント程度だったが、現在では七八パーセントにまで高まっている。この技術を発展させ、それを世界に発信することによって、水問題に苦しむ国や地域に貢献することができる。

水問題は、水自体に問題があるわけではない。行きすぎた人間の行動が鏡に映ったものが、水問題である。これは、地域の問題であると同時に、世界の問題である。現代の課題であると同時に、将来を見据えて長期的に捉えるべき課題である。自然の摂理の中で、身近な水を大切に使う生活、一〇年後、一〇〇年後の水を育む生活こそが、水問題の解決につながっていく。

〈この教科書のための書きおろし〉



【著者】 橋本 淳司（はしもと じゅんじ）
一九六七（昭和四二）年—

水ジャーナリスト。群馬県の生まれ。

【著書】 『100年後の水を守る』『水がなくなる日』『日本の地下水が危ない』など

新出漢字

88 循 ジュン 循行	89 斤 キン 斤量	89 鶏 ケイ にわとり 養鶏
89 豚 ブトン 養豚	90 栽 サイ 盆栽	90 培 バイ へちかう 培養
90 膨 ポウ ふくらむ 着膨れ	90 巨 キョ 巨万	90 枯 コ かいらす 栄枯
92 杯 ハイ さかずき 水杯	92 廢 ハイ すたれる 廢り物	92 棄 キ 棄権
92 壤 ジョウ 豊穰	93 据 ジュ すわえる 据え置き	

「読むこと」教材の末尾には「私の本棚」を設け、教材との関連を明示し、多様な観点から本を紹介しました。

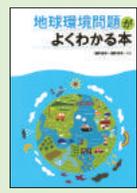
私の本棚

データから考える
地球の未来

明日の水は大丈夫？
橋本 淳司



地球環境問題が
よくわかる本
浦野 紘平・浦野 真弥



NHK地球データマップ
「編」NHK「地球データ
マップ」制作班



右3 漢 一杯
右7 漢 廃棄
右17 漢 土壤
左6 漢 見据える

右1 意 なおかつ ↓ 類 しかも
右6 意 供給 ↓ 対 需要
右7 意 廃棄
右7 意 土壤
右17 意 ろ過
右18 意 涵養 ↓ 類 育成
左3 意 貢献 ↓ 類 寄与
左6 意 摂理

学びの道しるべ



「読むこと」教材の「学びの道しるべ」は、見開き2ページで丁寧に学習過程を示しました。学びのステップを明確にすることで、主体的・対話的で深い学びを実現します。

目標

- 文章と図表などを結びつけて、筆者の考えを捉える。目標を確かめて、学習の見通しをもちます。
- 文章を読んで理解したこと、知識や経験とを結びつけて、自分の考えを広げる。

内容を整理する

情報を整理・確認して、文章の内容や構成をつかみます。自学自習にも対応した課題を設定しています。

1 「私たちは今、深刻な水不足に直面している。」(88ページ・8行め)とあるが、それはなぜか。本文から必要な情報を抜き出して、一五〇字程度でまとめよう。

2 筆者は、「水の循環になるべく負担をかけない水の使い方をする事」(91ページ・19行め)が大切だと述べている。具体的にどのような使い方が、まとめよう。

読みを深める

文章を詳しく読み、対話をとおして内容や構成・表現の仕方についての理解を深めます。

3 「物を作るのに必要な水(バーチャルウォーター)の量」の図表(90ページ)は、どのような効果を果たしているか。本文との対応に着目して考え、話し合おう。読み方を学ぼう 図表と文章

「学びの道しるべ」の課題に関連して学習できる、さまざまな読みの方略を取り上げました。96ページ

ステップ 1

ステップ 2

ステップ 3

ステップ 4

ステップ 5

+α



学びを振り返る

自分の学習を振り返って評価し、これからの学習へ生かします。

目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめよう。

振り返りのキーワード

文章と図表・水問題・自分の考え

学びを広げる

身のまわりにあるものに使われている「バーチャルウォーター」について調べ、報告し合おう。

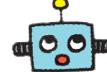
ステップ1~5までの学習を活用して取り組み、学びを更に広げたり、深めたりします。

この教材での学びをこれからの学習や読書へつなげよう。

思考の方法



もし、○○だったら……。



なぜなら

森林や水田で水をろ過して、地下水として蓄えているから。

なら

地下水が育めなくなってしまう。

もし

森林や水田がなくなってしまった。

もし……



本文の内容をより深く理解するために、ある状況を仮定してみる。

「学びの道しるべ」の課題と関連づけて、考えを整理したり深めたりする方法を「思考の方法」として示しました。

語彙を豊かに

大きいことを表す言葉

「膨大」(90ページ・4行め)、「巨大」(90ページ・8行め)は、いずれも規模が大きいことを表す言葉です。

他にも、「大」という言葉はたくさんあります。大きいことを表す点では似ていますが、それぞれの語の意味は、微妙に異なります。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ● 偉大 | ● 遠大 | ● 過大 | ● 寛大 |
| ● 強大 | ● 極大 | ● 広大 | ● 誇大 |
| ● 最大 | ● 至大 | ● 重大 | ● 甚大 |
| ● 盛大 | ● 絶大 | ● 壮大 | ● 多大 |
| ● 長大 | ● 特大 | ● 莫大 | ● 雄大 |

意味は似かよっていても、文脈に合わせて、最適な語を選ぶことが大事だね。



「語彙を豊かに」では、語感を磨き語彙を豊かにするために、さまざまなテーマで教材に関連した語彙を取り上げました。

グラフや図表などの多様な情報と、文章とを関連づけながら、現代の課題について自分の考えを深める単元を、各学年に特設しました。さまざまな価値観が並立するグローバル社会の一員として求められる幅広い資質・能力を育成できます。

情報

複数の情報を関連づけて 考えをまとめる

目標
● 意見と根拠などの関係に注意して、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、考えをまとめる。
● 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりする。

テーマ

互いに支え合う共生社会をつくるために

情報単元

まずは、このページで単元の目標と学習活動の流れを確認し、学習の見通しをもちます。

1 課題をつかむ

資料A 「共生社会に関連するデータ」を読み、共生社会の実現に向けた課題について、気づいたことをもとに話し合おう。



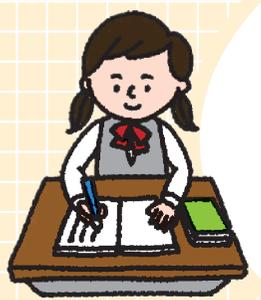
2 多様な考えにふれる

資料B 「自立とは『依存先を増やすこと』」を読んで、筆者の考えを整理しよう。
● 筆者は、「他者」や「社会」をどのようなものとして捉えているか。



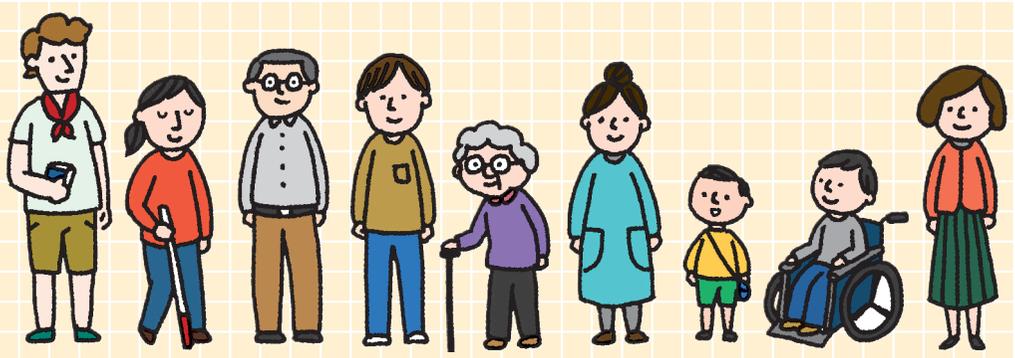
3 自分の考えをもつ

資料A・Bを関連づけて、共生社会の実現に向けて、大切だと思うことをまとめよう。
● 多様な考えや意見があることを想定して、自分の考えを作る。
● 必要に応じて、本や新聞、インターネットなどで情報を集め、自分の考えの根拠となるデータや文章の一部を引用する。

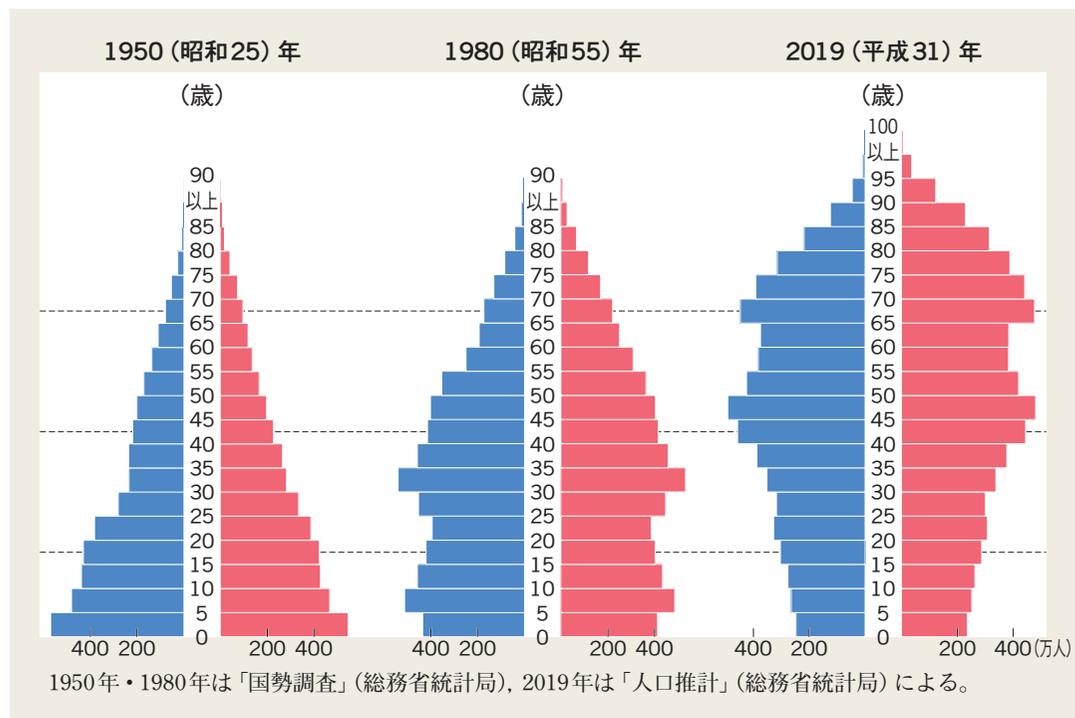


4 考えを深める

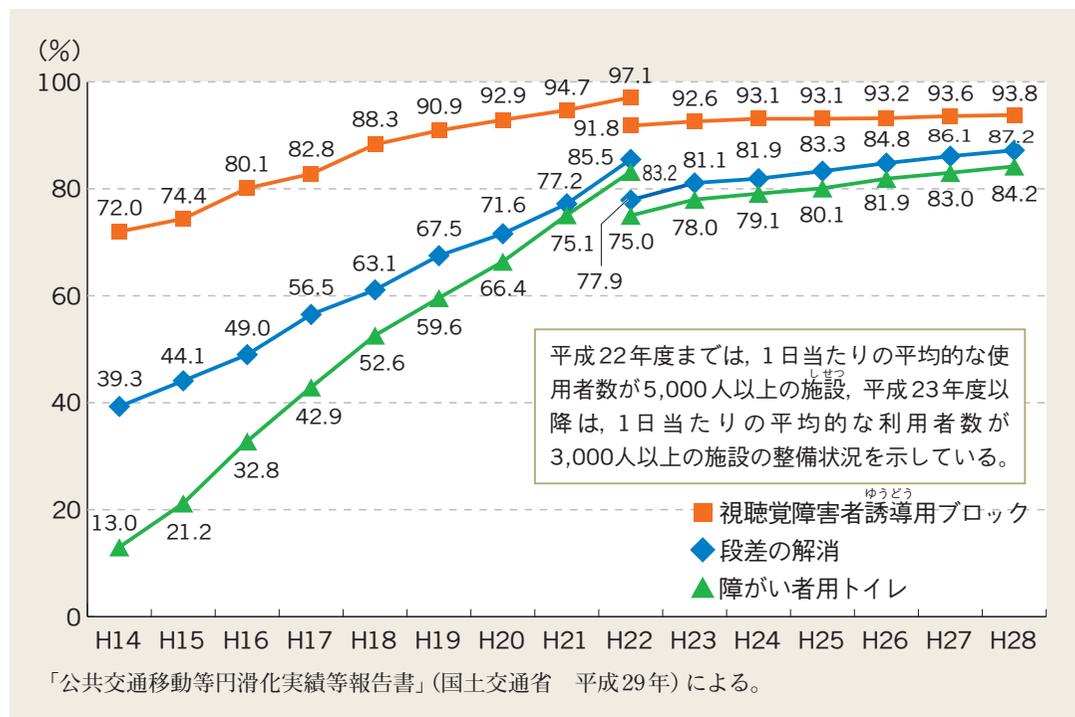
グループで話し合っ、それぞれが大切だと思うことを交流し、考えを広げ、深めよう。



2 人口ピラミッドの変化



3 鉄道駅等におけるバリアフリー化の推移



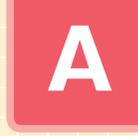
情報単元

1 テーマに関するデータを読み取り、情報と情報とを関連づけて、話し合いながら課題を見つけます。



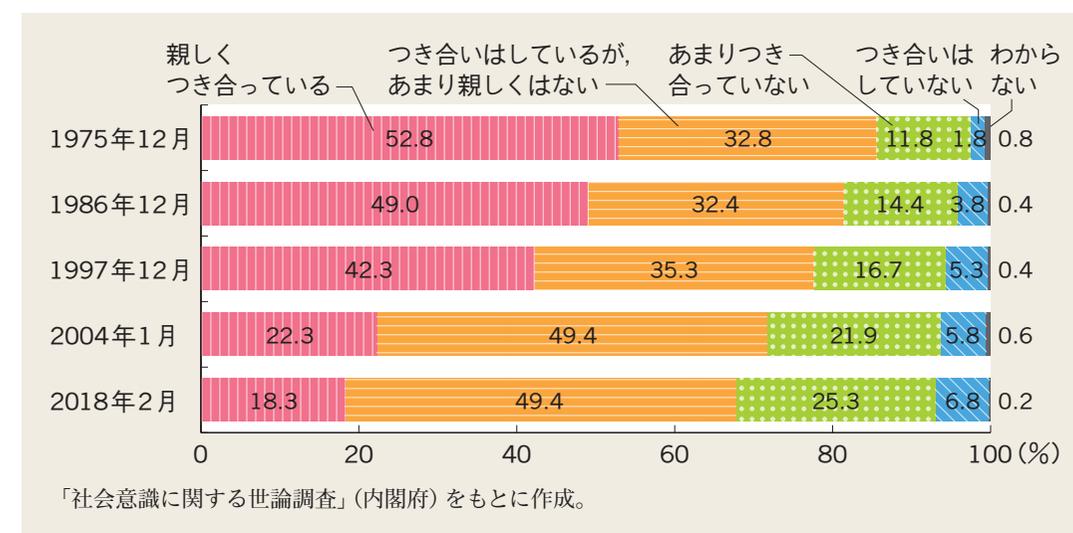
- いくつかのグラフを関連づけて課題を考える。
 - わかったことをもとに共生社会を実現するための課題を考える。
 - 一つ一つのグラフからわかることを見つける。
- 「共生社会」とは、誰もが相互に支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会のことをいう。次に示す「共生社会に関するグラフ」三点を読み、共生社会の実現に向けた課題について、気づいたことをもとに話し合おう。

資料



共生社会に関するデータ

1 近所づき合いの程度の変遷



自立とは「依存先を増やすこと」

熊谷 晋一郎

情報単元

2 課題について別の切り口から述べられた文章を読み、データと文章とを関連づけて、課題に関する理解を広げ、深めます。

私は、生後すぐに高熱が出たことなどが原因で脳性麻痺まひとなりました。手足が不自由なため、中学生の頃から車椅子くるいを使っていて、日常生活を送る上では他者の介助が欠かせません。

私が生まれた一九七〇年代には、脳性麻痺は早期にリハビリをすれば九割は治るといわれていました。このため、私の親は私が物心つく前から、膝立ちひざの仕方、寝返りのうち方、茶碗の持ち方など、毎日五、六時間にも及ぶおま厳しいリハビリをさせました。全ては、私ができるだけ健常者に近づけ、独り立ちできるようにしようという、愛情ゆえにしたことです。

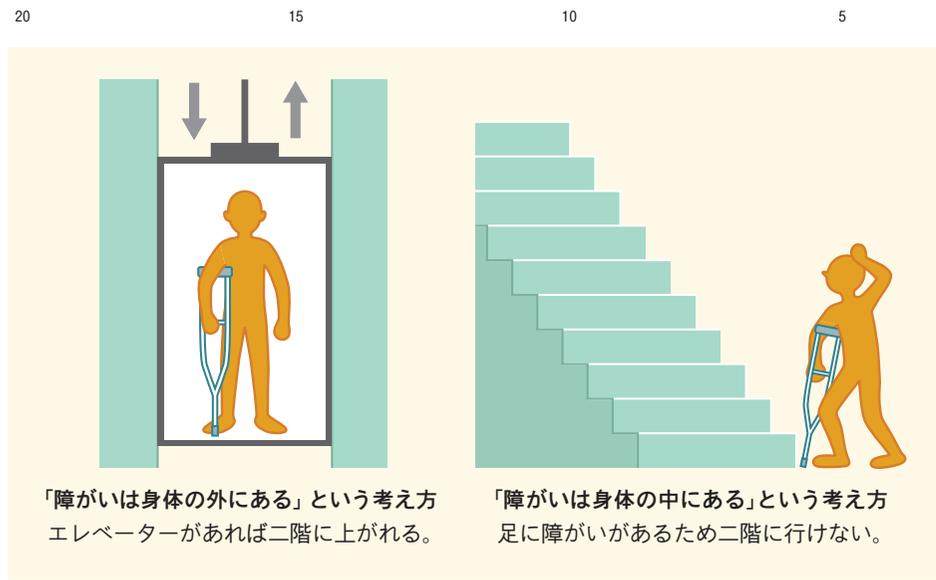
ところが一九八〇年代に入ると、脳性麻痺は治らないという医学論文が発表されたのです。そして、それに呼応するかのよう障がいそのものに対する考え方が一八〇度変わり、「障がいは身体の中ではなく外にある」という考え方がスタンダードになりました。例えば、私が二階に行けないのは私の足に障がいがあるからではなく、エレベーターがないからだ。だから、社会や環境の側を改善していこう、と考えるわけです。

こうした考え方が広がると、街中で障がいをもつ人に出会う機会が格段に増えました。

それまで私は常に親と二人三脚ふにさんきゃくの生活をしてきたため、「親がいなくなってしまうたら自分も生きていけなくなるのではないか。」という不安を幼い頃から抱えていました。ところが、街で見かける人の中には自分より重

そうな障がいをもった人もいます。その人たちがありのままの姿で自由に暮らしているのを見て、「リハビリをしても治らないけれど、健常者にならなくても社会に出られるんだ。」という確信が芽生えたのです。

それ以来、一人暮らしをしようと、強く思うようになりました。当然のことながら親は大反対し、母がついてくると言いました。それならば、親が容易には来られない場所に行くしかない。それで、山口県から東京の大学に進学したのです。親は、「社会というのは障がい者に厳しい。障がいをもったままの状態じょうたいで一人で社会に出したら、息子はどうなってしまうのか。」と心配していたようです。でも、実際に一人暮らしを始めて私が感じたのは、「社会は案外優しい場所なんだ。」ということでした。



1 脳性麻痺 胎児期から新生時期にかけて、何らかの原因で脳の運動中枢に異常が起こり、動作が十分にできなくなる病気。

2 漢 車椅子

1 漢 二人三脚

意 依存

意 介助 ↓ 類 介護

意 物心つく

意 独り立ち ↓ 類 独立

意 格段

意 二人三脚

意 ありのまま

↓ 類 あるがまま

大学の近くに下宿していたのですが、部屋に戻ると必ず友達が二、三人いて、「お帰り。」と迎えてくれました。いつのまにか合い鍵が八個も作られていて、みんなが代わる代わるやってきては好き勝手にご飯を作って食べていく。その代わり、私をお風呂に入れてくれたり、介助してくれたりしました。

また、外出時に見ず知らずの人にトイレの介助を頼んだこともあります。たくさんの方が助けてくれました。こうした経験から次第に人や社会に関心をもつようになり、入学当初目指していた数学者ではなく、医学の道を志すことを決めたのです。

それまで私が依存できる先は親だけでした。だから、親を失えば生きていけないのでは、という不安がぬぐえなかった。でも、一人暮らしをしたことで、友達や社会など、依存できる先を増やしていけば、自分は生きていける、自立できるんだということがわかったのです。

「自立」とは、依存しなくなることだと思われがちです。でも、そうではありません。「依存先を増やしていくこと」こそが、自立なのです。これは障がいの有無にかかわらず、全ての



人に通じる普遍的なことだと、私は思います。

これから皆さんが接していく他者や社会というものは、自分の前に立ちだかるものかもしれません。でも、皆さん自身がそれに立ち向かい、その中に頼れる場所を開拓していくことで、やがて皆さんを支えてくれるものへと変わっていくのです。

〈出典 全国大学生生活協同組合連合会ウェブサイト「大学生協の保障制度」の記事を書き改めたもの〉



【著者】熊谷 晋一郎（くまがやしんいちろう）
一九七七（昭和五二）年—
医師。科学者。山口県の生まれ。
【著書】『リハビリの夜』『つながりの作法』（共著）『障害者運動のバトンをつなぐ』（共著）など

情報単元
3 読み取って関連づけた
情報をもとに、自分の
考えをまとめます。

情報単元
4 話し合いで深めます。

146 椅 ▼ イ

椅子

147 脚 ▼ キヤン

あし

机の脚

新出漢字

左1 意 普通 ↓ 対特殊
右13 意 ぬぐう ↓ 類 拭き取る



投稿文

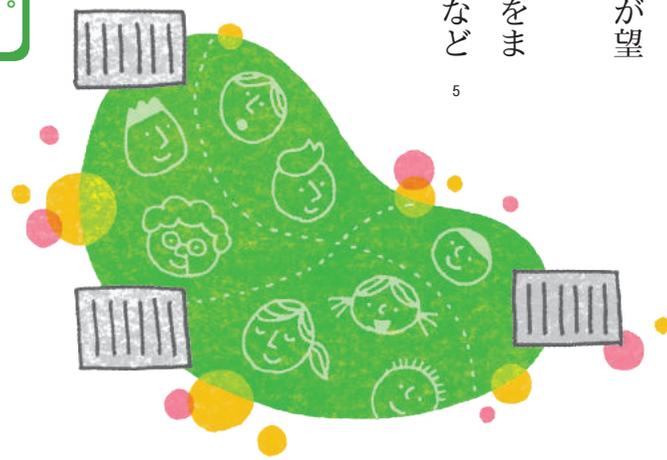
情報を関連づけて 根拠を明確に示す

誰もがお互いに個性を尊重し合い、認め合って支え合う社会の実現が望まれています。

共生社会の実現に向けた考えをまとめて文章に書き、新聞や雑誌などに投稿しましょう。

情報単元

さらに、「書くこと」へとつなげます。データや文章を関連づけて情報を読み取り、話し合いをとおして深めた自分の考えを発信します。



投稿文

読者が新聞・雑誌などに自分の体験や意見を発表するために書いて送る文章。

目標

- 多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。
- 自分の意見と根拠を明確にして、説得力のある文章を書く。

各教材の冒頭に目標を明示し、見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

学習の流れ

- 1 課題について、自分の考えをまとめる
- 2 構成を考えて投稿文を書く
- 3 推敲する
- 4 交流する
- 5 学びを振り返る

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、冒頭に「学習の流れ」を示し、各教材の学習活動の流れがひとめでわかるようにしました。

1 課題について、自分の考えをまとめる

共生社会の実現に関して、多様な情報にふれて、自分の考えをまとめます。まずは、自分の意見の中心を一文で簡潔に書き表しましょう。

2 構成を考えて投稿文を書く

中心となる一文をもとに、意見の根拠となる情報を整理して、構成を考えます。自分の意見が明確になるように構成を工夫しましょう。必要に応じて根拠となる情報を追加で集めます。根拠となるデータや文章の一部を引用するときは、引用であることがわかるように「」で示したり、「○○によれば」と著者名を示したりしましょう。

構成が決まったら、四〇〇〇字程度の投稿文にまとめます。



資料編286ページ「引用と著作権」

3 推敲する

- 投稿文が書けたら、次のような観点で推敲しましょう。
- 自分の意見は明確に表されているか。
- 根拠が意見を支えるものとなっているか。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、各教材の学習のポイントを示し、「学び方」を確かめて身につけられるようにしました。

投稿文を書くときのポイント

- ◎ 多様な考えがある課題について、自分の考えを述べる場合は、自分がどのような立場に立つかをはっきりさせる。
- ◎ 多様な考えがあることを想定して、自分とは異なる考えの人に対して、説得力がある意見となることを意識する。
- ◎ 自分の意見を支える根拠をできるだけ多く書き出して、その中から特に、自分の意見を支えるものを選ぶ。



4 交流する

投稿文が書けたら、お互いに読み合って、「なぜそう考えたのか」「自分ならこうする」など、感想や意見を伝え合いましょう。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、話し合い例・スピーチ例・作文例・作品例などを示し、ゴールイメージをもつことで学習に取り組みやすくしました。

四月、私のクラスに新たな仲間が転校してきた。彼は、海外から家族の仕事の関係で転校してきた友達だ。はじめは、日本語でのコミュニケーションが難しく、お互いに易しい英語と身振り手振りで話していた。けれど、不自由さを感じることは少なかった。コミュニケーションには、お互いのことをもっと知りたいという思いが大切なのだと思う。体験だった。

意見のもとになった自分の体験を示している。

投稿文の例

これから日本を訪れる外国人の数はますます増えてくるといわれている。二〇一八年三月の法務省の発表によると、日本に住む外国人は二〇一七年の時点でおよそ二百五十六万人に達しているそうだ。隣に住む人のルーツが外国であることもこれからは普通のことになっていくのだと思う。コミュニケーションのためには、お互いに言葉を理解することも大切だ。しかし、それ以上に相手のことをわかろうとする対話の心がまえが最も大切だと私は思う。

根拠となるデータを引用している。

学びを振り返る

目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめましょう。

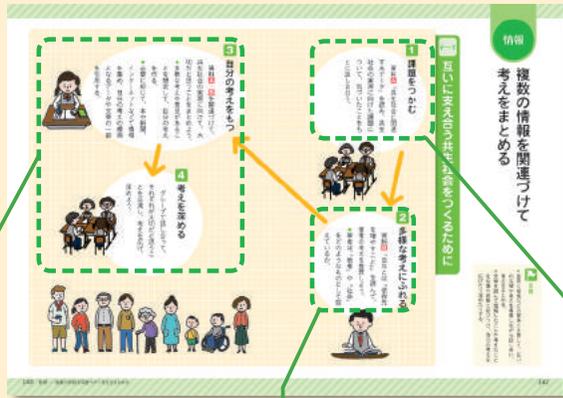
5

教材の最後には学習を振り返る機会を設け、身についた力を自分で診断・評価し、次に生かすことができます。

社会生活のさまざまな問題に対して関心を広げ、自分の考えを発信していきます。

第6単元「情報を関係づける」の構成

単元の目標を確認し、学習の見通しをもちます。



6 情報を関係づける

複数の情報源を用いて考えをまとめる

自立社会
共生社会に関するデータ

「依存先を増やす」「自立社会」

投稿文
「海外から家族の仕事の関係で転校してきた友達」

148 149 150 151 152

2年 p.141
テーマ：共生社会

1 情報（図表と図表）を関連づける
テーマに関するデータを読み取り、話し合いながら課題を見つけます。

A 共生社会に関するデータ

図表
図表

148

2 情報（図表と文章）を関連づける
課題について別の切り口から述べられた文章を読み、課題に関する理解を広げ、深めます。

B 自立社会「依存先を増やす」「自立社会」

文章
文章

149

3 情報をもとに、考えを深める
読み取って関連づけた情報をもとに、自分の考えをまとめ、話し合いで深めます。

4 情報をもとに、考えを深める

149

さらに、「書くこと」へとつなげます。

投稿文

情報を関係づけて
情報を明確に示す

150

6 情報を関係づける

複数の情報源を用いて考えをまとめる

情報社会と自立社会

「依存先を増やす」「自立社会」

151

3年 p.139
テーマ：メディアリテラシー

6 情報を関係づける

複数の情報源を用いて考えをまとめる

防災に関するデータ

152

1年 p.141
テーマ：防災

目次

領域別教材一覧 12

※ダイジェストでは、囲みの教材を紹介しています。

1 豊かに想像する

詩 岩が **新教材** 16
吉野 弘 よしの ひろし

小説 握手 20
井上 ひさし いのうえ ひさし

読み方を学ぼう ① 回想 32

言葉発見① 辞書の語釈 **新教材** 33

グループディスカッション 合意形成に向けて話し合いを計画的に進める **新教材** 34

漢字を身につけよう① 38

2 わかりやすく伝える

評論 書き 間の文化 44
長谷川 權 はせがわ けん

「批判的に読む」とは **新教材** 40
吉川 芳則 きつか よしのり

読み方を学ぼう ② 批判的な読み 40

課題作文 条件に応じて説得力のある文章を書く **新教材** 52

漢字のしくみ 四字熟語 58

漢字を身につけよう② 60

3 ものの見方・感性を養う

解説 俳句の世界 **新教材** 62
夏井 いつき なつ井 いつき

コラム 夏井いつきの赤ペン俳句教室 **新教材** 65

俳句 俳句十句 66

読み方を学ぼう ③ 省略 **新教材** 71



4 論理的に考える

書く 批評文 観察・分析をとおして評価する **新教材** 72

言葉発見② 和語・漢語・外来語 76

随想 希望 **新教材** 78
大石 芳野 おおいし よしの

私の読書体験 谷間の君へ **新教材** 84
宮下 奈都 みやした なの

漢字を身につけよう③ 86

論説 フロン規制の物語 —— 〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざままで 88
神里 達博 かみざと たつひろ

読み方を学ぼう ④ 具体と抽象 **新教材** 98

言葉発見③ 慣用句・ことわざ・故事成語 99

パブリックスピーキング 状況に応じて話す力を養う **新教材** 102

漢字を身につけよう④ 106

5 古典に学ぶ

古文 和歌の世界 —— 万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 108
まんよしゅう こきんわかしゅう しんこきんわかしゅう

古文 コラム コミュニケーションツールとしての歌 118

おくのほそ道 120
松尾 芭蕉 まつお ばしやう

読み方を学ぼう ⑤ 状況・背景 **新教材** 130

言葉発見④ 言葉の現在・過去・未来 131

漢文 論語 132

漢文の読み方 訓読の仕方の確認 135

表現プラザ 漢字一字で表現すると 136

漢字を身につけよう⑥ 138



6 情報を関係づける

- 情報 複数の情報を関連づけて考えをまとめる **新教材** 140
- 論説 情報社会を生きる——メディア・リテラシー 142
- 実用文 広告の読み比べ **新教材** 148
- 書く ポスター 情報の信頼性を確かめて考えを発信する **新教材** 150

文法の窓 表現につながる文法 153

漢字を身につけよう⑥ 154

詩

初恋 156

コラム 文語定型詩と口語自由詩 159

言葉発見⑤ 相手や場に配慮した言葉遣い 160

小説

故郷 162

読み方を学ぼう⑥ 反復 **新教材** 178

読書活動⑤ ブックトーク 179

漢字を身につけよう⑦ 180

島崎 藤村 156

魯迅「訳」竹内好 162

8 視野を広げる

- 論説 「文殊の知恵」の時代 182
- 小説 坊っちゃん 186
- 話す・聞く 漢字を身につけよう⑧ 199
- 書く 名言集 中学校生活を振り返って 200
- 歌の言葉 さくら（独唱） **新教材** 206

「歌」森山直太郎 200

北川 達夫 182

夏目 漱石 186

文法のまとめ 208

三年間の文法の総まとめ 212

読書の広場

- 小さな図書館 220
- 小説 高瀬舟 226
- 物語 サンバ舞う空 **新教材** 238
- 古文 近世の短詩——俳句・川柳・狂歌 246

随想 「ありがとう」と言わない重さ 250

評伝 武器なき「出陣」 256

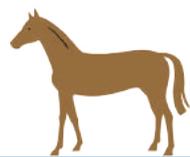
——千本松原が語り継ぐ 船戸 政一

資料編

- 情報を活用する 262
- 情報探しの方法 268
- 引用と著作権 270
- 古典芸能に親しむ 272
- 能・狂言の世界 278
- 狂言 柿山伏 284
- 社会生活に生かす 288
- メモを活用する 288
- 話し合いの形式を選ぶ 282
- 辞典を活用する 284
- 手紙・はがき・メールの書き方 284
- 原稿用紙の使い方・推敲の仕方 286

参考資料

- 日本文学名作集 288
- 学習用語辞典 292
- 語彙の広がり **新教材** 298
- 「思考の方法」一覧 **新教材** 302
- 三年生で学ぶ漢字字典 306
- 三年生で学ぶ音訓 310
- 小学校六年生で学習した漢字 321
- 常用漢字表音訓一覧 322
- 常用漢字表付表 335
- 「読み方を学ぼう」一覧 折り込み





話す・聞く

グループディスカッション

合意形成に向けて 話し合いを計画的に進める

各学年の第1単元に「グループディスカッション」を設けました。話し合いの方法を学年のはじめに学習することで、さまざまな場面で活用できます。

少人数で話し合う「グループディスカッション」は、考えを広げたり深めたりするのに役立ちます。話し合いをよりよくするためには、どのようなことに気をつけるとよいでしょうか。

ここでは、「話し合いを計画的に進める」ための「話し合いのこつ」について学んでいきましょう。



グループディスカッション

あるテーマについて、異なる立場や考えの人たちが少人数で意見を交換すること。



目標

- 話し合いを計画的に進行するための方法を理解し、活用する。
- 話の展開を予測しながら聞き、自分の考えを広げたり深めたりする。

各教材の冒頭に目標を明示し、見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

学習の流れ

- 1 「話し合いのこつ」を見つける
 - 2 グループで話し合いをする
 - 3 話し合いでの発言を振り返る
- 学びを振り返る

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、冒頭に「学習の流れ」を示し、各教材の学習活動の流れがひとめでわかるようにしました。

1 「話し合いのこつ」を見つける

次の話し合い記録から、「話し合いを計画的に進める」ための「話し合いのこつ」を見つけましょう。特に、太字の発言のはたらきや効果を考えましょう。

テーマ クラスの旗のデザインを決めよう

石原 **先にイラストを決めて、そのあとで旗に書く言葉を考えてよか。**

松山 今回は、それでいいこう。

石原 まず、イラストについての意見はある？

野村 やっぱり、シンプルなのがいいよね。

田中 中心に桜のマークを描くのはどうかな。

松山 どうして桜のマークがいいの？

田中 この中学校には、五つの小学校の卒業生が入学して、今は一つに団結しているよね。それを、桜の五つの花びらで表現できると思ったから。

野村 そういえば、遠足で見た桜もきれいだったよね。お弁当もおいしかったし。

田中 ああ、桜の木の下で食べたの懐かしいね。

石原 **話がずれているよ。元の話に戻そう。**

松山 あ！桜じゃなくて、一年間使えるように、星のマークにするのはどうかな。

野村 なんて？

松山 星も五つの角があるし、みんなキラリと光るってイメージも付け加えたくて。

野村 それ、すごくいいね。

田中 うん。いいと思う。石原さんはどう？

石原 私も賛成！ **じゃあ、イラストは星のマークで**

決定だね。次は、旗に書く言葉を考えよう。

野村 そうだなあ。言葉も、クラスで団結できるようなものがいいね。

...



2 グループで話し合いをする

話し合いの質を高めるための「話し合いのこつ」を、3年間の系統性を意識して配列しました。

次の「話し合いのこつ」を意識して、グループで話し合いましょう。

計画

最初に計画を立てる
例「話し合う順番は……」

展開

別の論点への展開を促す
例「次は……について話そう」

軌道修正

☆
それだ話題を戻す
例「話を元に戻そうよ」

整理

意見を整理する
例「意見をまとめると……」



テーマ例

- ◎クラスの旗のデザイン（イラスト・言葉）を決めよう。
- ◎学校紹介のパンフレットのデザイン（写真・キャッチコピー）を決めよう。
- ◎球技大会の種目とルールを決めよう。
- ◎地元の特産品のPR方法（メディアの種類・キャッチコピー）を決めよう。

この教科書に出てくる「話し合いのこつ」と発言例

話し合いを「つなげる」(二年)

- 提案 「だったら、……はどうかね」
- 確認 「……ってどう思うの？」
- 質問 「どうして？」
- 促し 「○○さんはどう？」

話し合いを「深める」(二年)

- 反論 「でも、……」
- 理由づけ 「……だから」
- 受容 「……はわかるよ」
- 言い換え 「それって、……だよ」

話し合いを「計画的に進める」(三年)

- 計画 「話し合う順番は……」
- 展開 「次は、……について話そう」
- 軌道修正 「話を元に戻そうよ」
- 整理 「意見をまとめると……」

*うなずく、相づちをうつ、顔を向けるなど、相手が話しやすい聞き方を心がけましょう。

八人一組になり、四人が話し合っている間、残りの四人は話し合いを観察します。話し合いの中で効果的だった発言と発言者をメモしましょう。

発言メモの例

発言	発言者	こつ	効果
先に……を決めて、そのあとで……を考えようか。	石原	計画	これにより計画的に話し合えた。
うん。いいと思う。石原さんはどう？	田中	促し	全員の意見を引き出した。
次は、旗に書く言葉を考えてよう。	石原	展開	話し合いの展開を促した。

3 話し合いでの発言を振り返る

- 発言メモを参考にして、具体的な発言に着目した振り返りをしましょう。
- どのような「話し合いのこつ」が出てきたか。
- 話し合いを計画的に進めるための「話し合いのこつ」のうち、特に効果的だったのはどれか。

学びを振り返る

目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめましょう。

教材の最後には学習を振り返る機会を設け、身についた力を自分で診断・評価し、次に生かすことができます。

「話し合いのこつ」とその効果は、話し合い後に記入しましょう。全ての発言について記入する必要はありません。また、自分で見つけたこつも書いてみましょう。

「話し合いのこつ」は、それぞれに効果的なタイミングがあります。どのようなときに、なんのために使うのかを意識しながら、一年間を通して話し合いに生かしましょう。

「批判的に読む」とは

吉川 芳則

各学年の最初の説明文教材の前に、「プレ教材としての『読み方を学ぼう』を折込形式で配置しました。直後の説明文教材で「読み方」を活用することで、確かな力につながります。3年では、文章を批判的に検討しながら、自分の考えを確かにする「読み方」を身につけます。

日本語の「批判」という言葉は、粗探しをする、文句を言うというイメージが強いようです。しかし本来、「批判」とは、物事について冷静に考え、認めるべき点と認められない点を見分けて判断することです。

文章を読むことにおいても、このような見方・考え方が重要です。「批判的に読む」とは、よいものはよい、よくないものはよくないと判断しながら読むことです。主張に対する根拠や理由は適切か、偏った考え方ではないかと吟味、評価する読み方です。

吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』の中にある一節をもとに、具体的な読み方を示してみましょう。

一つは、文章や本に積極的にはたらきかけながら読むことです。これは、「新しく知ったこと」や「共感したこと」、「疑問をもったこと」、「不思議に思ったこと」などを見つけながら読む

- 1 漢 粗探し
- 6 漢 吟味
- 新しく知ったこと
- 共感したこと
- 疑問をもったこと
- 不思議に思ったこと

はたらきかけながら読む

行為です。すすんで文章に関わっていく態度をもつかどうかで、自分にとってのその文章の価値は大きく違ってきます。

次に、筆者の意図や発想を推し測って読むことです。これは、「なぜ筆者はこの話題を選んだのか」、「なぜこのような論の展開をしているのか」、「なぜこのような言葉を用いているのか」などを考えながら読む行為です。文章の内容や表現の仕方などについて、筆者の意図や発想を推し測って読むことは、筆者が本当に伝えたいことを的確に、また豊かに捉えることに通じます。

筆者の意図や発想がわかって「そうなのか」と思うだけでは、まだ生産的な読み方とはいえません。最も重要なのは、自分の考えをつくるために読むことです。これは、筆者の主張や意見に対して、「賛成」「反対」、「納得できる」「納得できない」を表明していく読み方です。また、「論の展開がわかりやすい」「この例では不十分だ」「論理が飛躍しているのではないか」「全てにあてはまるのか」などを吟味・評価することです。筆者の主張や意見の内容であれ、述べ方であれ、それらについて「私はこのように考える」といえることが重要です。その際大切なのは、理由（なぜそのように考えたのか）や、根拠（考えのもとになった言葉や事実、経験は何か）を明らかにすることです。ただ言いほるだけはいけません。

- 考えをつくるために読む
- 賛成／反対
- 納得できる／納得できない
- 論の展開がわかりやすい
- 例が不十分
- 論理の飛躍
- 全てにあてはまるのか

考えをつくるために読む

推し測って読む

- 話題の選択
- 論の展開
- 言葉の使い方

批判的に読むことは、ものの方や考え方を広げ、深めます。現代社会をたくましく豊かに生きていく力強い読み手になるために、ぜひ身につけたい読み方です。

〈この教科書のための書きおろし〉

『君たちはどう生きるか』の一節

15

10

5

推し測って読む

論の展開

はたらきかけながら読む

疑問

はたらきかけながら読む

疑問

「世の中の本当のこと」と「大きな真理」とはどう違うのだろう。

疑問

はたらきかけながら読む

推し測って読む

言葉の使い方

なぜ「大きな真理」といっているのか。

推し測って読む

君は、コペルニクスの地動説を知ってるね。コペルニクスがそれを唱えるまで、昔の人は、みんな、太陽や星が地球の周りを回っていると、目で見たまに信じていた。これは、一つは、キリスト教の教会の教えで、地球が宇宙の中心だと信じていたせいもある。しかし、もう一歩突きいって考えると、人間というもの、いつても、自分を中心として、ものを見たり考えたりするという性質をもっているためなんだ。(中略)

いや、君が大人になるとわかるけれど、こういう自分中心の考え方を抜けてきつていくという人は、広い世の中にも、実にまねなのだ。殊に、損得に関わることになる、自分を離れて正しく判断してゆくとすることは、非常に難しいことで、こういうことについてすら、コペルニクス風の考え方でできる人は、非常に偉い人といえる。たいがいの人が、手前勝手な考え方に陥って、ものの真相がわからなくなり、自分に都合のよいことだけを見てゆこうとするものなんだ。

しかし、自分たちの地球が宇宙の中心だという考えにかじりついてきた間、人類には宇宙の本当のことがわからなかったと同様に、自分ばかりを中心にして、物事を判断してゆくと、世の中の本当のこと、ついに知ることができないでしまう。

考えをつくるために読む

全てにあてはまるのか

筆者は、「決して映らないのだ。」と断言しているが、言いすぎてはないか。世の中には、誰にとっても明らかでない大きな真理もあるのではないのか。例えば……



この言葉はどういう意味だろう。辞書で調べてみよう。



日本の文化の特徴を讀者にわかりやすく伝えるために、西洋の文化と比較して説明しているのだな。

本当にそうかな？
違った捉え方もできそうだな。自分だったらこう思う。



▶ 著者による解説動画をご覧ください。 <https://tb.sanseido-publ.co.jp/03gkpr/contentintro/#01>

日本の文化における「間」について、西洋との比較から論じた評論文。「批判的な読み」の方略を用いることで、より深い学びが実現できます。

間の文化

長谷川 權



目標

- 文章の構成や論理の展開の仕方を捉え、評価する。
- 「間」や「和」を観点にして、日本文化についての自分の考えを深める。

各教材の冒頭に目標を明示し、見通しをもって主体的に学習できるようにしました。



西洋の家

日本語の「間」という言葉にはいくつかの意味がある。まず一つは「空間的な間」である。「隙間」「間取り」というときの「間」であるが、基本的には「物と物とのあいだの何も無い空間」のことだ。絵画で何も描かれていない部分のことを余白というが、これも空間的な間である。日本の家は本来、床と柱とそれを覆う屋根でできていて、壁というものが無い。これは部屋を細かく区分けし、壁で仕切り、そのうえ、鍵のかかる扉で密閉してしまう西洋の家とは異なる。西洋の個人主義はこのような個室で組み立てられた家に住んできたからこそ生まれたというのはよくわかる話である。

それでは、壁や扉で仕切るかわりに日本の家はどうか



日本の家



「源氏物語手鑑」(住吉如慶)

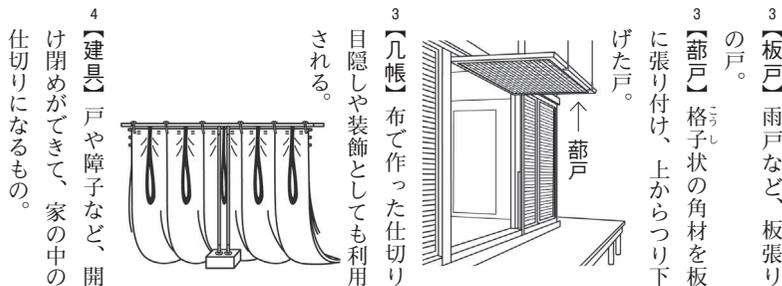
平安貴族の屋敷が描かれている。

るかというと、障子やふすまや戸を立てる。「源氏物語絵巻」などに描かれた王朝時代の宮廷や貴族たちの屋敷を見ると、その室内は板戸や藪戸、ふすまや几帳などさまざまな間仕切りの建具で仕切られてはいるものの、至るところ隙間だらけである。西洋の重厚な石や煉瓦や木の壁に比べると、なんとという軽やかさ、はかなさだろうか。

しかも、このような建具は全て季節のめぐりとともに入れたりはずしたりできる。冬になれば寒さを防ぐために立て、夏になれば涼を得るために取りはずす。それだけでなく、住人の必要に応じて、ふだんは座敷、次の間、居間と分けて使っていても、いざ、おおぜいの客を迎えて祝宴を開くという段になると、全てをつないで大広間にすることもできる。このように日本人は昔から自分たちの家の中の空間を自由自在につないだり仕切ったりして暮らしてきた。

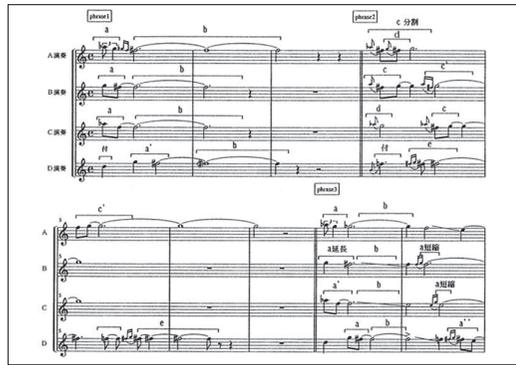
次に、「時間的な間」がある。「間がある」「間をおく」というように、こちらは「何も無い時間」のことである。芝居や音楽では声や音のしない沈黙の時間のことを間という。

2 漢 隙間
8 漢 鍵



2 漢 宮廷
5 音 重厚
19 漢 芝居
左5 意 重厚 ↓ 対 軽薄

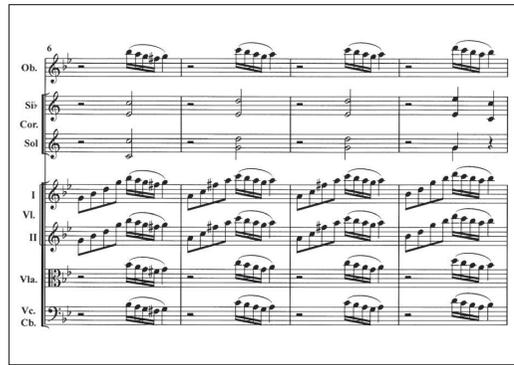
▶ 著者のエッセイをお読みいただけます。
https://tb.sanseido-publ.co.jp/03gkpr/kotomana_12/



日本の音曲（「名乗り笛」）を楽譜化したもの



日本古来の音曲（能楽）



交響曲第25番ト短調（モーツァルト）の楽譜



西洋音楽のオーケストラ

「遠慮」という言葉は中国で生まれた言葉だが、中国では深謀遠慮というように「深く考えをめぐらす」という意味だった。これが海を渡って日本にもたらされると、やがて「相手のことを考えて行動を控える」という日本人特有の心理的な間を表す言葉に変わった。

こうして日本人は生活や芸術や人間関係のあらゆる分野で間を使いこなしながら暮らしている。それを上手に使えば「間に合う」「間がいい」ということになり、逆に使い方を誤れば「間違い」、間に締めりがなければ「間延び」、間を読めなければ「間抜け」になってしまう。

このように考えれば、間の使い方はこの国の最も基本的な「掟」であって、日本文化はまさに「間の文化」と

20

とって暮らしている。このような心理的な間があって初めて日々の暮らしを円滑に運ぶことができる。

日本人は「あなたは遠慮深い」と言われると、褒められたような気がする。つまり日本では遠慮は美德とされる。遠慮とは自分のやりたいこと、利益になることをあえて辞退することだが、言いかえると、相手とのあいだに衝突を和らげる空白地帯として心理的な間をおくことである。

「遠慮」という言葉は中国で生まれた言葉だが、中国では深謀遠慮というように「深く考えをめぐらす」という意味だった。これが海を渡って日本にもたらされると、やがて「相手のことを考えて行動を控える」という日本人特有の心理的な間を表す言葉に変わった。

こうして日本人は生活や芸術や人間関係のあらゆる分野で間を使いこなしながら暮らしている。それを上手に使えば「間に合う」「間がいい」ということになり、逆に使い方を誤れば「間違い」、間に締めりがなければ「間延び」、間を読めなければ「間抜け」になってしまう。

10

5

空間的、時間的な間の他にも、人や物事とのあいだにとる「心理的な間」というものもある。誰でも自分以外の人のとのあいだに、たとえ相手が夫婦や家族や友人であっても長短さまさまな心理的な距離、つまり、間を音曲は成り立つ。

空間的、時間的な間の他にも、人や物事とのあいだにとる「心理的な間」というものもある。誰でも自分以外の人のとのあいだに、たとえ相手が夫婦や家族や友人であっても長短さまさまな心理的な距離、つまり、間を

20

15

10

5

- 右7 意 衝動
- 右7 意 駆られる
- 右10 意 のどか
- 右14 意 やおら↓ 類 おもむろ
- 左2 意 円滑

「読むこと」教材の脚注欄には、辞書などを活用して意味を調べる語句を提示するとともに、類義語や対義語を示し、言葉の関係性を捉えながら語彙力を高められるようにしました。

- 3 漢 遠慮
- 3 漢 褒める
- 10 漢 深謀

- 8 漢 琴
- 15 音 断ち切る
- 8 【音曲】日本の古典的な唄や演奏。
- 4 【交響曲】主に管弦楽によって演奏される規模の大きな楽曲。
- 1 【バッハ】一六八五年ー一七五〇年。ドイツの作曲家。
- 1 【モーツァルト】一七五六年ー一七九一年。オーストリアの作曲家。

いうことができるだろう。

では、この間は日本人の生活や文化の中でどのようなはたらきをしているのだろうか。その最も重要なはたらきは異質なものどうしの対立を和らげ、調和させ、共存させること、つまり、「和」を実現させることである。早い話、互いに意見の異なる二人を狭い部屋に押し込めておけばけんかになるだろう。しかし、二人のあいだに十分な間をとってやれば、互いに共存できるはずだ。狭い通路に一度におおぜいの人々が殺到すれば、たちまち身動きがとれなくなってパニックに陥ってしまうが、一人ずつ間遠まどおに通してやればなんの問題も起こらない。
日本人が、昔から尊重し、培つちかってきたこの「和」が誕生するために、なくてはならない土台が「間」なのである。和はこの間があって初めて成り立つということになる。
〈出典『和の思想』を書き改めたもの〉

10

15

「間」を生かした日本文化の例



龍安寺の石庭 幅約25メートル、奥行き約10メートルの空間に白砂を敷きつめ、大小15個の石が配置されている。



「松林図屏風」(長谷川等伯) 霧の間から見え隠れする松林が水墨で表現され、静かで奥行きのある空間を描き出している。

9 【間遠】時間的・距離の間隔が長くあいている様子。

4 漢 狭い

8 漢 陥る

5

「批判的に読む」とは



【著者】吉川 芳則 (ぎっかわ よしのり)
一九六〇(昭和三五)年
国語教育学者。兵庫県の生まれ。

【著書】『授業づくり、学級づくりの勘どころ』『説明的文章の学習活動の構成と展開』など

新出漢字

40 粗 ▼ ソコ
あらうい 粗品

40 吟 ▼ ギン 詩吟

間の文化



【著者】長谷川 權 (はせがわ かい)
一九五四(昭和二九)年
俳人。熊本県の生まれ。

【著書】『句会入門』『俳句の宇宙』『奥の細道』をよむ』など

新出漢字

44 隙 ▼ ぐち 戸の隙

45 廷 ▼ テイ 法廷

46 琴 ▼ キン 琴線

47 褒 ▼ ほう べた褒め

48 狭 ▼ せま 手狭

44 鍵 ▼ けん 鍵盤

45 芝 ▼ しば 芝刈り

47 慮 ▼ りょ 考慮

47 謀 ▼ ぼう 無謀

48 陥 ▼ かん 陥没

新出音訓

45 厚 ▼ コウ 濃厚

46 断 ▼ たつ 糸を断つ

私の本棚

「読むこと」教材の末尾には「私の本棚」を設け、教材との関連を明示し、多様な観点から本を紹介しました。

多角的に捉え直す日本の文化

古池に蛙は飛びこんだか
長谷川 權



心の色 ことばの光
清川 妙



書を楽しもう 魚住 和晃



学びの道しるべ



「読むこと」教材の「学びの道しるべ」は、見開き2ページで丁寧に学習過程を示しました。学びのステップを明確にすることで、主体的・対話的で深い学びを実現します。

目標

- 文章の構成や論理の展開の仕方を捉え、評価する。 目標を確かめて、学習の見通しをもちます。
- 「問」や「和」を観点にして、日本文化についての自分の考えを深める。

内容を整理する

情報を整理・確認して、文章の内容や構成をつかみます。自学・自習にも対応した課題を設定しています。

1 日本の文化における「問」について、次の観点から、それぞれの特徴をまとめよう。

↓思考 ⚡ 比較する

- ① 空間的な問
- ② 時間的な問
- ③ 心理的な問

2 「和はこの問があつて初めて成り立つということになる。」(48ページ・14行め)と筆者が述べる理由をまとめよう。

読みを深める

文章を詳しく読み、対話をとおして内容や構成・表現の仕方についての理解を深めます。

3 「拵」(47ページ・20行め)という言葉の意味を国語辞典で確認し、本文でこの言葉が用いられていることの効果を考えよう。

直前に学習した読みの方略を活用することで、確かな力につながります。▶ 40ページ

4 「空間的な問」「時間的な問」「心理的な問」の順序で示されていることの結果について考えよう。

自分の考えを深める

文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを深めたり、広げたりします。

5 「問の使い方はこの国の最も基本的な『拵』であつて、日本文化はまさに『間の文化』ということができるだろう。」(47ページ・19行め)とある。こうした筆者の主張について、あなたはどうか考えるか。自分の意見をまとめて発表しよう。

↓読み方を学ぼう 批判的な読み

学びを振り返る

自分の学習を振り返って評価し、これからの学習へ生かします。



目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめよう。

振り返りのキーワード 論理の展開・効果・問・文化・批判的な読み

学びを広げる

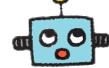
「日本文化は『]の文化』だ。」の]にあてはまる言葉を考えて、具体的な例をあげて紹介し合おう。

ステップ1～5までの学習を活用して取り組み、学びを更に広げたり、深めたりします。

この教材での学びをこれからの学習や読書へつなげよう。

思考の方法 比較する

〇〇という観点で比べると……。



比較の観点

空間的な問

特徴	日本文化の
比較	
特徴	西洋文化の

時間的な問

特徴	日本文化の
比較	
特徴	西洋文化の

心理的な問

特徴	日本文化の
比較	
特徴	

日本文化の特徴を捉えるために、それぞれの観点で、比較されている西洋文化の特徴との違いに着目する。

「学びの道しるべ」の課題と関連づけて、考えを整理したり深めたりする方法を「思考の方法」として示しました。

語彙を豊かに

「問」を含んだ表現

日本語の中には、「問」を含んださまざまな表現があります。それぞれ、どのような場面で使われる表現でしょうか。

- 間をおく (45ページ・17行め)
- 間がいい (47ページ・16行め)
- 間が延びる
- 間がもたない
- 間をもたせる
- 間が悪い
- 間を欠く



空間的・時間的・心理的な問のうちどの間かな。

「語彙を豊かに」では、語感を磨き語彙を豊かにするために、さまざまなテーマで教材に関連した語彙を取り上げました。



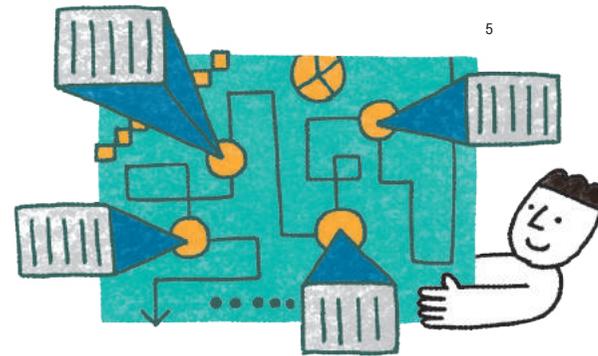
課題作文

条件に応じて 説得力のある文章を書く

字数や段落構成など、与えられた条件に合わせて、グラフから読み取って考えたことを書く教材。入試や学力調査等における課題にも対応しています。

提示された文章や図表の内容を読み取り、自分の考えをまとめ、条件に合わせて二〇〇字程度の文章を書きましょう。

話の展開がわかりやすく、筋道のとおりた文章は、より多くの人を説得することができます。



課題作文

与えられた条件に従って、自分の考えをまとめ、読む人を説得できるように筋道を立てて書いた短い文章。

目標

- 条件に応じて表現を考えたり、資料を適切に引用したりして、自分の考えが伝わるように工夫する。
- 文章全体を読み直し、目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて推敲する。

各教材の冒頭に目標を明示し、見直しをもって主体的に学習できるようにしました。

学習の流れ

- 1 課題について、自分の考えをまとめる
- 2 課題作文を書く
- 3 交流をとおして、推敲する箇所を見つける
- 4 交流を生かして推敲する
- 学びを振り返る

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、冒頭に「学習の流れ」を示し、各教材の学習活動の流れがひとめでわかるようにしました。

1 課題について、自分の考えをまとめる

次の文章や図表の内容を読み取り、自分の考えをまとめましょう。

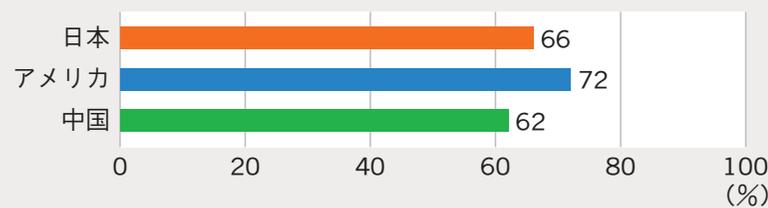
課題

次のグラフAとCは、「高校生の勉強と生活に関する意識調査」の質問に対する、日本、アメリカ、中国の高校生の回答結果の一部を示したものである。これらのグラフを読み、あとの〈条件〉に従って書きなさい。

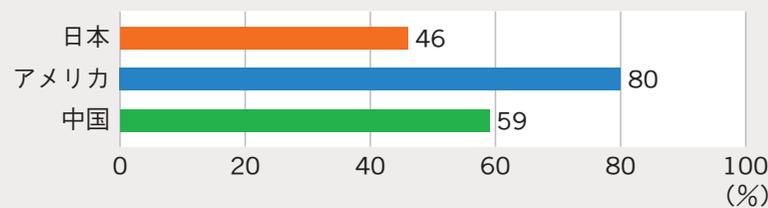
〈条件〉

- ◆ 二段落構成で、二〇〇～二五〇字程度で書く。
- ◆ グラフAとCから二つを取り上げる。
- ◆ 第一段落には、グラフから読み取ったこと、気づいたことを書く。
- ◆ 第二段落には、自分の体験をふまえて、今後の学校生活や社会生活で取り組みたいことなど、自分の考えを書く。

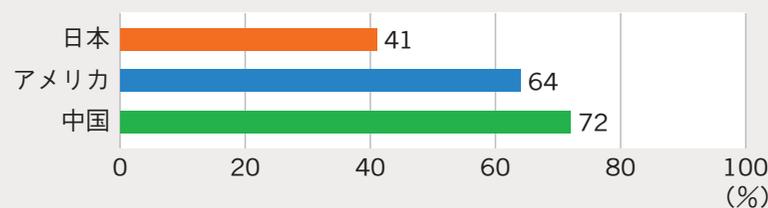
グラフA 得意なものを見つけたり、磨いたりすることが大切だ



グラフB 社会のできごとについて考えることが得意だ



グラフC 勉強したものを実際に応用することが大切だ



国立青少年教育振興機構「高校生の勉強と生活に関する意識調査」(2017)・小数点以下切り捨て

自分の考えをまとめる時の手順

- 1 図表から読み取れることをメモします。
- 2 自分の体験を振り返りながら、①のメモに感想や考えを加えます。
- 3 ①②のメモを見て、自分の考えをまとめて、一つの文に表します。

↓ 思考 関連づける 資料編 278 ページ「メモを活用する」

メモ例①

グラフ(A) 日本 66 アメリカ 72 中国 62 ↓ 同じくらい	グラフ(C) 日本 41 アメリカ 64 中国 72 ↓ 日本は他国の6割程度
---------------------------------------------------	--------------------------------------------------------

⇒「磨くこと」+「知識を生かそうとする意識」が大切。

メモ例②

グラフB…日本=46 アメリカ=80 中国=59	グラフC…日本=41 アメリカ=64 中国=72	34 } 13 23 } 31	いずれも日本 がいちばん低い ↓ 自分の外側に 目を向けるこ とが苦手？
--------------------------------	--------------------------------	--------------------	-----------------------------------------------------

★もっと積極性をもつべき。
★勉強した内容を、どう生かしていくか考えたい。

2 課題作文を書く

- 次の点を意識して、説得力のある課題作文を書きます。
- 条件に従って、各段落の内容をまとめる。
 - 図表に書かれていることを適切に引用し、自分の考えに説得力をもたせる。

3 交流をとおして、^{すいこう} 推敲する箇所を見つける

- 交流をとおして感想を述べ合い、自分の考えを深めます。また、次の観点で読み合い、推敲する箇所を見つけましょう。
- 条件に従って書けているか。
 - 書かれている内容について、読み手は納得したか。
 - 図表の解釈と、今後取り組みたいこととの結びつきは適切か。
 - 表現をよりよくできないか。

4 交流を生かして推敲する

- ③で交流した内容をもとに、自分が書いた文章を読み返します。意見・根拠の説明の仕方など、わかりやすい形になるよう、必要に応じて書き直しましょう。

語彙を豊かに

グラフから読み取るときの表現例

- 読み取り**
- ○%が△と答えている。
 - ○%から○%に増えて(減っている)。
 - △という点では○○だが、一方で、△という点では○○だ。
 - △という点とは対照的に○○だ。
 - この中では△が圧倒的に○○だ。
 - △という傾向にあるといえる。
 - △よりもはるかに○○だ。
 - AとBから△だと考えられる。
 - この結果から、この先は△になることが予測できる。
- 解釈**

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の「語彙を豊かに」では、学習活動に即した表現例を多数提示しました。実際に使うことで、確かな語彙力へとつながります。

各教材の学習活動と関連づけて、考えを整理したり深めたりする方法を「思考の方法」として示しました。

思考の方法 関連づける

○○と○○を結びつけて考えると……。

二つ以上のものを結びつけて考えることによって、新しい考えが生まれる。

グラフCから読み取ったこと
勉強したことの影響が大切だと考える日本の高校生の割合は、他2国より低い。

グラフBから読み取ったこと
日本の高校生の半数以上は、社会のできごとについて考えるのが得意でない。

関連づける

考えたこと
日本の高校生は、アメリカや中国の高校生より内向的？

課題作文の例（交流前）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材では、話し合い例・スピーチ例・作文例・作品例などを示し、ゴールイメージをもつことで学習に取り組みやすくしました。

① 取り上げたグラフ：AとC

グラフAとCを比べてみた。まずグラフAでは、どの国の高校生も得意なもの、磨くことに関心が高く大きな差はない。次にグラフCでは、アメリカや中国に比べて応用するところが大切だと考える日本の高校生は少ない。日本の高校生は勉強したものを応用しようとすする意識が足りない。

文のねじれ

具体的な数値が不明

② 取り上げたグラフ：BとC

グラフBとCの日本の高校生の回答を比べると、社会のできごとについて考えることが得意と答えたのは四六%しか、また、勉強したものを応用することは大切だと答えたのは四一%に及んでいない。一方、アメリカと中国の高校生は半数を超えており、日本は最も高い国の六割程度に留まっている。

考えが不明確

助詞・文末の誤り

課題作文の例（交流後）

グラフAとCを比べてみた。まずグラフAでは、どの国の高校生も半数以上が得意なもの、磨くことに関心が高く、大きな差はない。次にグラフCでは、応用すること、大きな差はない。考える日本の高校生は四一%しかおらず、アメリカや中国の高校生は六割程度で、意識に大きな差があることが読み取れる。

文のねじれを修正

数値を加筆

グラフBとCの日本の高校生の回答を比べると、社会のできごとについて考えることが得意と答えたのは四六%のみで、また、勉強したものを応用することは大切だと答えたのも四一%しかいない。一方、アメリカと中国の高校生は半数を超えており、日本は最も高い国の六割程度に留まっている。日本は最も高い国の六割程度に留まっている。日本は最も高い国の六割程度に留まっている。

自分の考えを明示

助詞・文末を修正

学びを振り返る

教材の最後には学習を振り返る機会を設け、身についた力を自分で診断・評価し、次に生かすことができます。

目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめましょう。

テレビや新聞などで報道されているできごとや身のまわりで起こっている事柄について、自分の考えをまとめて、いろいろな人と交流しましょう。

俳句の世界

夏井 いつき



目標

- 俳句のきまりや表現の特徴をもとに、俳句についての理解を深める。
- 語句に注意して情景を豊かに想像し、俳句を読み味わう。

各教材の冒頭に目標を明示し、見通しをもって主体的に学習できるようにしました。

あれは中学三年生の国語の授業のことでした。単元はまさに俳句。先生は、「俳句が五七五の十七音で表現される定型詩」であること、「季語を用いる」という約束があること、「切れ字によって句の印象を深める」などの技法があることを説明したあと、「俳句は調べやリズムのある韻文です。声に出して味わってみましょう。」と、私を指名なさいました。

おの 斧入れて香におどろくや冬木立

よき 与謝 蕪村

5

「香におどろく」ってどういう意味だろうと思いつきながら、教科書を両手で持ち、大きな声で読みました。「おのいれて、かにおどろくや、ふゆこだち。」声に出したとたん、いきなり新しい木の香りがツーンと押し寄せてきました。余りに新鮮な匂いだったので、ひどく驚きました。キョロキョロ見回しても窓は閉まっているし、教室はいつものとおりだし。「着席していいですよ。」という先生の声で椅子に座ってからは、やっと気づきました。ドキドキするほど鮮烈なこの匂いは、私の鼻腔の奥から匂っているのだとわかったのです。

10

なぜそんなことが起こったのか、中学生の私には全く理解できませんでした。が、大人になり俳句を作るようになってから、あの日と同じ肉体反応を何度も体験するに至り、それが季語の力によるものだとわかってきました。季語は五感情報のかたまりです。「冬木立」は、単に冬の木

という意味を伝えるだけでなく、背後にある冬の青空や暗い雲（視覚）、冷たい風や堅い幹（触觉）を感じさせます。冬鳥の声（聴覚）を聞きとめる人もいるでしょう。そして「斧入れて」と

いう動作、「香におどろくや」という発音が、「や」という切れ字を置いて描かれることによって、

5

読者は、枯れているような冬木に斧が入ったとたんに放たれる木の香りを鮮やかに追体験します。俳句はたった十七音で五感をなまなましく刺激する力をもった類いまれな文学なのです。

初めて吟行に出かけたときのことです。一本の木の落葉にひかれました。秋の日ざしの中で、

10

のひらよりも大きな葉が、くるりくるりと光を揺らしながら落ちていきます。脳裏に「日当たりながら落ちにけり」という言葉が浮かびました。佳句になる！ あとはこの木の名を調べるだけだ！ たまたま通りかかった句会の先輩が教えてくれました。「これが桐の木だよ。」その木の名を知ったとたん、思わず「あっ！」と声をあげてしまいました。

桐一葉日当たりながら落ちにけり

たかはま 高浜 虚子

15

「読むこと」教材の脚注欄には、辞書などを活用して意味を調べる語句を提示するとともに、類義語や対義語を示し、言葉の関係を捉えながら語彙力を高められるようにしました。

私は知識としてこの句を知っていましたが、眼前にある落葉の名を知りませんでした。美しい落葉がゆっくりと降り続く光景が「日当たりながら落ちにけり」という詩句を記憶の底から引き出し出てくる。これが俳人虚子の描写力なのだ！ と鳥肌が立ちました。俳句を勉強するようになって、この句は「一物仕立て」という技法によるものだとこのことを知りまし。十七音全部で季語のことだけを描写する方法ですが、実際に作ってみると、どのよ

- 右10 意 鮮烈
- 左5 意 感知 ↓ 類 察知
- 左8 意 類
- 左8 意 まれ
- 左10 意 脳裏
- 左17 意 鳥肌

▶ 著者からのメッセージ動画をご覧ください。

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/03gkpr/contentintro/#03>

うに作っても、似たような発想・言葉の句（類想類句）になってしまい、これが実に難しいのです。リアリティに満ちた一物仕立ての句を作るのは、私には難しく感じられました。

俳句を作るのが俄然楽しくなったのは「取り合わせ」という技法を学んでからです。季語を描写するのではなく、季語とは関係のないフレーズと季語を取り合わせる手法です。

秋つばめ包のひとつに赤ん坊

黒田 杏子

読んだ瞬間、私は行ったこともないモンゴルの大平原にワープして、大陸の乾いた爽やかな風の中、南へ帰っていくつばめを仰ぐ自分を感じました。秋つばめの飛び交う青空の下には、モンゴルの移動式住居、包が見えてきます。いくつか並ぶ包の一つに赤ん坊がいるのです。赤ん坊は眠っているようにも笑っているようにも思えます。秋つばめという季語と包の中にいる赤ん坊が取り合わせられることで、一句の世界に人の営みが描かれ、奥行きが生まれ、動いていく季節の手触りが伝わる。十七音の文字列にすぎない俳句には、読み手の目や耳や鼻に、色や音や匂いがありありと再現させる力がある。俳句ってすごいなあ！ かっこいいなあ！ と感嘆しました。私たちは日常的に五感を使って暮らしています。季語が伝える五感情報にほんの少し心を傾けるなら、誰にでもその豊かな世界を開いてくれる、俳句とはそんな広やかな文学なのです。

〈この教科書のための書きおろし〉



【著者】 夏井いつき（なついいつき）
一九五七（昭和三二）年—
俳人・エッセイスト。愛媛県の生まれ。

【著書】 『夏井いつきの俳句ことはじめ』『夏井いつきのおウチde俳句』『俳句の授業ができる本』など

テレビ番組「プレバト!!」（MBS）で人気の俳句コーナーをもとに、俳句の添削について、実例を取り上げて解説。着想や言葉の吟味など、俳句づくりの具体的なテクニックを知るとともに、言葉への新たな興味を喚起します。

コラム

夏井いつきの赤ペン俳句教室

発想を生かす言葉の選択

オリジナル리티あり!

▼せわしない印象↓ゆったりしたリズムに。

ぬうぬうと秋かき混ぜる観覧車

藤本 敏史

作者の
自解

観覧車がゆっくり秋という季節をかき混ぜている。「ぬうぬう」はゆっくりゆくり回っている様子を表現したかった。

「ぬうぬう」という擬態語にはオリジナル리티があり、「秋」を「混ぜる」という感覚にも共感します。

しかし、「ぬうぬう」という擬態語のもつゆくりした気分に対して、「かき混ぜる」という言葉の選び方に、ささやかな違和感をもちます。泡立て器で卵をチャカチャカかき混ぜるような印象を与えるからかもしれません。「かき混ぜる」の七音をもう少しゆったりしたリズムにしてみます。

添削例

ぬうぬうと秋を混ぜゆく観覧車

「秋」のあとに「を」を入れるだけで、ひと呼吸おけます。「かき混ぜる」の「かき」がせわしないので、「混ぜゆく」という複合動詞にしてささやかな時間を表現。これなら「ぬうぬう」が生きてくるのではないでしょうか。

15

10

5

言葉の無駄づかい

林道の朽ちし廃バス額の花

村上 健志

この二語の取り合わせは

作者の
自解

林道に錆びついて朽ちている廃バスが放置されている。そこに散らずに朽ちて錆色に咲いているガクアジサイ。アジサイの悲しげで、また美しい様子を詠みたいと思いました。

「廃バス」が朽ちている。「林道」の光景と、ひっそりとした「額の花」との取り合わせが佳い句です。

ただ、「廃バス」に対して「朽ちし」は情報が重複。俳句は十音しかないのです。いかに効率よく言葉を選ぶかが重要です。例えば、節約した「朽ちし」の三音を使って、「林道」のどの辺りに「廃バス」が置かれているかを描くなら……。

添削例 林道の端に廃バス額の花

添削例 林道の果てに廃バス額の花

また、五・七・五のリズムという定型からははずれますが、作者の表現したかった、アジサイの朽ちて錆色になった様子を詠み込むことも可能です。

添削例 林道に廃バス錆色に紫陽花

15

10

5

5【包】モンゴルの遊牧民などが住む、移動生活に便利なまんじゅう形の組み立て式の家。中国語では「パオ」、モンゴル語では「ゲル」という。

6【ワープ】時間や空間を超えて、瞬間的に移動すること。

6 漢 爽やか

右3 意 俄然
右10 意 営み

※五七五の定型や季語など、俳句の約束ごとにとらわれない作品を「自由律俳句」といいます。67ページにある種田山頭火・尾崎放哉の二句が、「自由律俳句」です。

宮下 奈都

作家の方に自身の読書体験を語っていただきました。読書への興味を喚起し、読書の意義や効用についての理解を深めます。

▶ 著者のエッセイをお読みいただけます。

https://tb.sanseido-publ.co.jp/03gkpr/kotomana_12/



宮下 奈都 (みやした なつ)
1967 (昭和42) 年—
作家。福井県の生まれ。

れでよかったのだと思う。同じ頃に読んだ『伊豆の踊子』にいたっては、今でも何度でも読み返す。書かれていることはけっこうおかしなことなだけけれど、やっぱりすごくいいものを感じる。そして、そういうものが後々まで生きる足しになるのだ。谷底にいるうちに、一冊でも、二冊でも、生きる足しになる物語を読めたら、人生はずいぶん豊かになると思う。

へこの教科書のための書きおろし

5

谷間の君へ

中学時代は、谷だと思う。山あり谷あり、の谷。深く沈むし、靄もかかる。楽しいこともうれしいこともあるけれど、つらいことや傷つくことも多い。私は、本に閉しても、谷だった。小学生の間は子供向けの本を読んでいけばよかった。でも、中学生になったとたん、何を讀んでいいかわからなくなってしまった。どれも自分より小さい人向けか、大きい人向けのように思えた。自分にちょうどいい友人や、自分にちょうどいい自分などという都合のいいものがないのと同じように、自分にちょうどいい本も、見つけるのは難しい。しかたがないので、家にあった文学全集から適当に読んでいった。そのときに出会ったのが、『細雪』や『柳橋物語』だ。全部を理解することはできなくても、物語の中をすごくいいものが流れていることだけはわかった気がした。たぶん、そ

10

5

宮下奈都さんの本

羊と鋼の森



スコール No. 4



よろこびの歌



細雪
谷崎潤一郎



柳橋物語
山本周五郎



伊豆の踊子
川端康成



読み方を学ぼう 一覧

文章を正確に読み解き、深く読み味わうための「技」や「コツ」を3年間で22種類示しました。
応用したり組み合わせたりしながら、繰り返し、さまざまな場面で活用しましょう。

学年	読み方	教科書で取り上げた教材	こんなときに使える (一例)
1年	1 説明文の基本構造	クジラの飲み水	「問の文化」「フロン規制の物語」「『文殊の知恵』の時代」などの説明的文章を読むとき
	2 人物相関図	空中ブランコ乗りのキキ	「握手」「坊っちゃん」などの物語や小説、随筆を読むとき
	3 行動描写	字のない葉書	「握手」「故郷」「坊っちゃん」「おくのほそ道」などの物語や小説、随筆を読むとき
	4 三角ロジック	玄関扉	「問の文化」「フロン規制の物語」「情報社会を生きる」などの説明的文章を読むとき
	5 詩の表現技法	それだけでいい	「岩が」「初恋」「さくら(独唱)」などの詩や小説、短歌・俳句を読むとき
	6 情景描写	トロッコ	「故郷」「おくのほそ道」「高瀬舟」などの物語や小説、詩、随筆を読むとき
	7 要約	意味と意図	「問の文化」「情報社会を生きる」「『文殊の知恵』の時代」などの説明的文章を読むとき
	8 語り手・視点	少年の日の思い出	「岩が」「握手」「故郷」「坊っちゃん」などの物語や小説、詩、随筆を読むとき
2年	1 人物設定	セミロングホームルーム	「握手」「故郷」「坊っちゃん」「高瀬舟」などの物語や小説を読むとき
	2 発展的な論の展開	人間は他の星に住むことができるのか	「問の文化」「フロン規制の物語」「情報社会を生きる」などの説明的文章を読むとき
	3 想像	短歌の世界／短歌十首	「岩が」「初恋」「故郷」「希望」などの小説や詩、短歌・俳句、随筆を読むとき
	4 図表と文章	一〇〇年後の水を守る	「フロン規制の物語」などの説明的文章を読むとき、理科や社会科などの資料を読むとき
	5 物語の転換点	平家物語	「故郷」「坊っちゃん」「サシバ舞う空」などの物語や小説を読むとき
	6 象徴	小さな手袋	「握手」「故郷」「坊っちゃん」「高瀬舟」「初恋」などの小説や詩、短歌・俳句を読むとき
	7 例示	動物園でできること	「問の文化」「フロン規制の物語」「『文殊の知恵』の時代」などの説明的文章を読むとき
	8 心内語	走れメロス	「握手」「故郷」「坊っちゃん」「高瀬舟」などの物語や小説を読むとき
3年	1 回想	握手	「故郷」「希望」「高瀬舟」などの物語や小説、随筆を読むとき
	2 批判的な読み	問の文化	「フロン規制の物語」「情報社会を生きる」などの説明的文章を読むとき
	3 省略	俳句の世界／俳句十句	「岩が」「おくのほそ道」「論語」「初恋」などの小説や詩、短歌・俳句を読むとき
	4 具体と抽象	フロン規制の物語	「問の文化」「情報社会を生きる」「『文殊の知恵』の時代」などの説明的文章を読むとき
	5 状況・背景	おくのほそ道	「希望」「故郷」「論語」などの小説や詩、短歌・俳句、随筆を読むとき
	6 反復	故郷	「握手」「初恋」「高瀬舟」などの小説や詩、短歌・俳句を読むとき

3年 読み方を学ぼう 1

回想

回想とは、自分が経験した過去のできごとを思い出すことです。小説の中の時間は、まっすぐ進むとは限りません。回想というかたちで過去の話がさき込まれるなど、時間の順序が組み替えられていることがあります。「握手」では、昔の思い出が、どのように現在の話に組み込まれているのでしょうか。

▼回想に注意してできごとの順序を整理すると、作品の構造と展開が明確につかめる。

●こんなときに使える
「故郷」「希望」「高瀬舟」などの物語や小説、随筆を読むとき

3年 読み方を学ぼう 2

批判的な読み

批判的に読むこと、筆者の論理の展開・表現の工夫を捉えたり、自分の考えを確かめるものにしていくことができます。

▼例 握手

「フロン規制の物語」「情報社会を生きる」などの説明的文章を読むとき

3年 読み方を学ぼう 3

省略

省略の技法を理解し、想像で余白を補うと、俳句や短歌がより深く読み味わえる。

▼例 俳句の世界／俳句十句

「岩が」「おくのほそ道」「論語」「初恋」などの小説や詩、短歌・俳句を読むとき

3年 読み方を学ぼう 4

具体と抽象

語にはさまざまな種類があります。例えば「フロン規制の物語」に出てくる語のうち、「冷蔵庫」は具体的な事物を表す語ですが、「利益」「損失」は概念を表す抽象的な語です。具体とは、物事などを明確な形や内容で示したものであり、抽象とは、いくつかの事物や頭に思い浮かべたものに共通する要素を抜き出して示したものです。

▼具体と抽象を意識して読むと、文章の内容をより論理的に理解することができるようになります。

●こんなときに使える
「問の文化」「情報社会を生きる」「『文殊の知恵』の時代」などの説明的文章を読むとき

3年 読み方を学ぼう 5

状況・背景

状況や背景をふまえて小説・随筆を読むと、より広く、深い読解が可能になります。

▼例 おくのほそ道

「希望」「故郷」「論語」などの小説や詩、短歌・俳句、随筆を読むとき

3年 読み方を学ぼう 6

反復

反復に着目して読むと、作品全体への理解をより深めることができます。

▼例 故郷

「握手」「初恋」「高瀬舟」などの小説や詩、短歌・俳句を読むとき

3年 読み方を学ぼう 7

人物設定

人物の設定は、物語の展開や登場人物の行動を捉えるために重要な要素です。

▼例 セミロングホームルーム

「握手」「初恋」「高瀬舟」などの物語や小説を読むとき

3年 読み方を学ぼう 8

人物相関図

登場人物の関係を整理すると、物語の展開や登場人物の行動を捉えるために重要な要素です。

▼例 人間は他の星に住むことができるのか

「問の文化」「フロン規制の物語」「情報社会を生きる」などの説明的文章を読むとき

3年 読み方を学ぼう 9

詩の表現技法

詩の表現技法を理解すると、詩の意味や意図を捉えることができます。

▼例 それだけでいい

「岩が」「初恋」「さくら(独唱)」などの詩や小説、短歌・俳句を読むとき

3年 読み方を学ぼう 10

情景描写

情景描写を理解すると、物語の世界観や登場人物の感情を捉えることができます。

▼例 トロッコ

「故郷」「おくのほそ道」「高瀬舟」などの物語や小説、詩、随筆を読むとき

3年 読み方を学ぼう 11

要約

要約は、文章の大意を簡潔にまとめることで、理解を深めることができます。

▼例 意味と意図

「問の文化」「情報社会を生きる」「『文殊の知恵』の時代」などの説明的文章を読むとき

3年 読み方を学ぼう 12

語り手・視点

語り手や視点の整理は、物語の展開や登場人物の行動を捉えるために重要な要素です。

▼例 少年の日の思い出

「岩が」「握手」「故郷」「坊っちゃん」などの物語や小説、詩、随筆を読むとき

3年 読み方を学ぼう 13

発展的な論の展開

発展的な論の展開を理解すると、説明的文章の論理を捉えることができます。

▼例 人間は他の星に住むことができるのか

「問の文化」「フロン規制の物語」「情報社会を生きる」などの説明的文章を読むとき

3年 読み方を学ぼう 14

想像

想像は、文章の世界観や登場人物の感情を捉えるために重要な要素です。

▼例 短歌の世界／短歌十首

「岩が」「初恋」「故郷」「希望」などの小説や詩、短歌・俳句、随筆を読むとき

3年 読み方を学ぼう 15

図表と文章

図表と文章の関係を整理すると、説明的文章の論理を捉えることができます。

▼例 一〇〇年後の水を守る

「フロン規制の物語」などの説明的文章を読むとき、理科や社会科などの資料を読むとき

3年 読み方を学ぼう 16

象徴

象徴は、物語の世界観や登場人物の感情を捉えるために重要な要素です。

▼例 小さな手袋

「握手」「故郷」「坊っちゃん」「高瀬舟」「初恋」などの小説や詩、短歌・俳句を読むとき

3年 読み方を学ぼう 17

例示

例示は、説明的文章の論理を捉えるために重要な要素です。

▼例 動物園でできること

「問の文化」「フロン規制の物語」「『文殊の知恵』の時代」などの説明的文章を読むとき

3年 読み方を学ぼう 18

心内語

心内語は、登場人物の感情や行動を捉えるために重要な要素です。

▼例 走れメロス

「握手」「故郷」「坊っちゃん」「高瀬舟」などの物語や小説を読むとき

3年 読み方を学ぼう 19

図表と文章

図表と文章の関係を整理すると、説明的文章の論理を捉えることができます。

▼例 一〇〇年後の水を守る

「フロン規制の物語」などの説明的文章を読むとき、理科や社会科などの資料を読むとき

各学年の巻末に、「読み方を学ぼう」の一覧を折込形式で示しました。既習の図解を見直し、繰り返し確認しながら活用できます。